

大学番号：国076

注3

[平成26年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

意見伺い

長崎大学 多文化社会学部 多文化社会学科

注2

## 【意見伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人長崎大学  
平成27年5月1日現在

### 作成担当者

担当部局（課）名・職名・氏名

総務部総務企画課企画班主査（企画）

クサムラ トシアキ  
草村 俊昭

文教地区事務部総務課多文化社会学部総務班主任

タダ タクロウ  
多田 拓朗

電話番号 095-819-2014

（夜間） 095-819-2014

F A X 095-819-2024

e-mail soshikai@ml.nagasaki-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

( )書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部(平成◇◇年度より変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成27年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

## 多文化社会学部

<多文化社会学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	29
4. 既設大学等の状況	30
5. 教員組織の状況	33
6. 留意事項等に対する履行状況等	53
7. その他全般的事項	54

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人 長崎大学

## (2) 大学名

長崎大学

## (3) 大学の位置

〒852-8521  
長崎県長崎市文教町1番14号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(カタミネ シゲル) 片峰 茂 (平成20年10月)		
理事	(マツサカ ノブオウ) 松坂 誠應 (平成26年4月)		
学部長	(サクマ タダシ) 佐久間 正 (平成26年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
(例) 平成25年度に報告済の内容 → (25)  
平成27年度に報告する内容 → (27)  
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
・「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ 様式は, 平成24年度開設の4年制の学科の場合(平成27年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
多文化社会学部 多文化社会学科 学士(多文化社会学)	4年	100人	- 年次人	400人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 提出年度まで の平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	100 (-) [-]	-	100 (-) [-]	-	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	0.88倍	-	
志願者数	361 (-) [1]	- (-) [-]	169 (-) [2]	- (-) [-]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]			
受験者数	361 (-) [1]	- (-) [-]	168 (-) [1]	- (-) [-]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]			
合格者数	122 (-) [1]	- (-) [-]	96 (-) [1]	- (-) [-]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]			
B 入学者数	99 (-) [1]	- (-) [-]	78 (-) [-]	- (-) [-]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]			
入学定員超過率 B/A	0.99		0.78								

- (注) ・ 数字は, 平成27年5月1日現在の数字を記入してください。  
 ・ ( )内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (( ))書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ [ ]内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。  
 ・ 「開設年度から提出年度までの平均入学定員超過率」は, 完成年度を越えて報告書を提出する大学(「改善意見等対応状況報告書」を提出する大学)のみ記入してください。「設置計画履行状況等報告書」の場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[ 1 ] (-) 99	[-] (-) -	[-] (-) 78	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
2年次	/		[-] (-) 96	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次			/		/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )
4年次	/						/		/		[ ] ( )
計			[-] (-) 99	[-] (-) -	[-] (-) 174	[ ] ( )					[ ] ( )

- (注) ・ 数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
  - ・ ( )内には、**留年者の状況**について、**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成26年度 入学者	99 人	3 人	平成26年度	2 人	人	進路変更、一身上の都合	0.0 %
			平成27年度	1 人	1 人	除籍(死亡)	
			平成28年度	人	人		
			平成29年度	人	人		
平成27年度 入学者	78 人	0 人	平成27年度	人	人		0.0 %
			平成28年度	人	人		
			平成29年度	人	人		
平成28年度 入学者	人	0 人	平成28年度	0 人	0 人		#DIV/0! %
			平成29年度	人	人		
平成29年度 入学者	人	0 人	平成29年度	人	人		#DIV/0! %
合 計	177 人	3 人					0.0 %

(注)・数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成27年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<共通>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置						備考				
			必修	選択	自由	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	助手					
必須科目	<教養ゼミナール科目>																
	教養ゼミナール	1前	2				1 2	8						担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26)			
	<情報科学科目>																
	情報基礎	前 1後	2											兼 2 教育効果の向上のため(27)			
	<健康・スポーツ科学科目>																
	健康科学	1後	1											5 担当教員の見直しのため(27) 6 担当教員の見直しのため(26) 兼 7			
	スポーツ演習	1後	1											兼 3 担当教員の見直しのため(27)			
	<英語>																
	英語コミュニケーションⅠ	1前	1					1						1 担当教員の見直しのため(26) 兼 2			
	英語コミュニケーションⅡ	1前	1					1						1 担当教員の見直しのため(27) 兼 2			
	英語コミュニケーションⅢ	後 2前	1											兼 3 教育効果の向上のため(27)			
	総合英語Ⅰ	1前	1				1							兼 2			
	総合英語Ⅱ	1前	1				1							兼 2			
	総合英語Ⅲ	前 2後	1											1 教育効果の向上及び担当教員の見直しのため(27) 兼 3			
	Advanced EnglishⅠ	3前	1											兼 3			
	Advanced EnglishⅡ	3後	1											兼 3			
	<初習外国語>																
	ドイツ語Ⅰ	1後		1			1										
	ドイツ語Ⅱ	1後		1			1										
	ドイツ語Ⅲ	2前		1										兼 1			
	ドイツ語Ⅳ	2後		1										兼 1			
	フランス語Ⅰ	1後		1										兼 1			
	フランス語Ⅱ	1後		1										兼 1			
	フランス語Ⅲ	2前		1										兼 1			
	フランス語Ⅳ	2後		1										兼 1			
	中国語Ⅰ	1後		1			2										
	中国語Ⅱ	1後		1			2										
	中国語Ⅲ	2前		1			2										
中国語Ⅳ	2後		1			2											
韓国語Ⅰ	1後		1										兼 1				
韓国語Ⅱ	1後		1										兼 1				
韓国語Ⅲ	2前		1										兼 1				
韓国語Ⅳ	2後		1										兼 1				
モジュール科目	種別	カテゴリー	テーマ	科目名										教育課程の見直しのため(27)			
	全学モジュールⅠ科目	英容する環境とリテラシー	先進医学と現代社会 微生物と人間社会	エイズについて考える 大体の構造と機能	1後	2									兼 3 教育課程(科目内容)の見直しのため(27)		
				医療現場における微生物 細胞と放射線	1後	2										兼 4 教育課程(科目内容)の見直しのため(27)	
				ヒトと微生物の関わり ~もちつ、もたれつ の関係性~ 遺伝子と生命	1後	2											兼 4 教育課程(科目内容)の見直しのため(27)
				教育原理論	1後	2											兼 1 教育課程(科目内容)の見直しのため(27)
				教育心理	1後	2											兼 1 担当教員の見直しのため(27)
				教育行政・制度論	1後	2											兼 1 担当教員の見直しのため(27)
				生物多様性を考える	1後	2											兼 3 担当教員の見直しのため(27)
				環境問題を考える													3 担当教員の昇任及び教育内容の充実のため(27)
				都市環境を考える	1後	2											兼 2
				地球温暖化を考える	1後	2											兼 4

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールI科目	暮らしに活かす情報 情報社会の安全と安心	情報の活用	1後	2								1 担当教員の退職のため(27) 兼 2	
		情報社会の安全と安心	1後	2								兼 1	
		計算機の科学	1後	2								兼 1	
	国際社会を理解するための多様な視点 グローバル社会への対応	東西文化交流の歴史	1後	2								1 担当教員の見直しのため(27) 3 担当教員の見直しのため(26) 兼 4	
		国際的視点に立った法と政治	1後	2								兼 1	
		科学技術と社会										教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)	
		国際的視点に立った経済	1後	2								兼 1	
	変容する環境とリテラシー コミュニケーション実践学 基礎講座	人間関係の社会学										教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)	
		コミュニケーションの人類学										教育課程(科目内容)の見直しのため(26)	
		コミュニケーションの比較文化	1後	2				1				兼 1	
		メディア・コミュニケーション基礎										1 教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27) 3 担当教員の見直しのため(26)	
		コミュニケーションの生物学	1後	2								兼 4	
		コミュニケーション基礎実践										3 教育課程(科目内容)の見直し及び教育内容の充実のため(27)	
	科学/技術の意思と限界 暮らしの中の情報科学 暮らしの中の科学	コミュニケーション基礎実践A・B										2 教育課程(科目内容)の見直し及び教育内容の充実のため(26)	
		コミュニケーションとICT	1後	2								兼 1	
		薬と生命科学を理解するための基礎科 生命科学	ビギナーのための有機化学	1後	2								4 教育内容の充実のため(26) 兼 2
			ビギナーのための物理科学	1後	2								兼 2 教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
			生命科学のための物理化学入門										
		核兵器のない世界を目指す 健康と安心で生きる社会	ビギナーのための生物学	1後	2								兼 4 教育課程(科目内容)の見直しのため(27)
			生命の化学(がきかいたび)										
			健康と医療の安全・安心	1後	2								3 担当教員の見直しのため(27) 兼 4
			リスク社会と社会科学	1後	2								兼 1 担当教員の見直しのため(27)
			科学と技術の安全・安心	1後	2								3 担当教員の見直しのため(26) 兼 4
	核兵器とは何か		1後	2								1 担当教員の退職のため(27) 2 担当教員の見直しのため(26) 兼 3	
	国際社会と平和		1後	2			4	1				担当教員の見直しのため(26)	
	暮らしの中の情報科学 暮らしの中の科学	被ばくと社会	1後	2								兼 4 担当教員の見直しのため(27)	
		暮らしの中の情報科学 数学の常識	1後	2								2 兼 1 教育課程(科目内容)の見直し及び教育内容の充実のため(26)	
		身の回りの中の物理科学 物理の考え方	1後	2								2 兼 1 教育課程(科目内容)の見直し及び教育内容の充実のため(26)	
	多様性と共生 企業活動と	環境・生活と化学	1後	2								兼 2	
		経済活動と社会	1後	2								兼 1 担当教員の見直しのため(27)	
企業の仕組みと行動		1後	2								兼 1 担当教員の見直しのため(27)		
		経済政策と公共部門	1後	2							兼 1 担当教員の見直しのため(27)		



科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養教育科目	全学モジュールI科目	多様性と共生 環境と環境人類の持続可能な発展 環境と環境人類の持続可能な発展	国際環境法 環境法（国際法）と環境問題への取組み	1後		2							兼1	教育課程（科目内容）の見直しのため(27)	
			国内環境法Ⅰ 環境基本法と環境基本計画	1後		2								兼1	教育課程（科目内容）の見直しのため(27)
			国内環境法Ⅱ 環境関連法（国内法）と環境コミュニケーション	1後		2									兼1
	全学モジュールII科目	先進医学と現代社会	免疫と病気	2前		2								兼4	担当教員の昇任のため(27)
			エイズと性感染症	2前		2								兼3	教育内容の充実のため(27)
			感染症と文明	2後		2								兼1	
			話題の先進医学	2後		2								兼1	
			幹細胞と再生医療	2後		2								兼4	
		生命と薬	伝承薬から最先端医薬品までⅡ	2前		2								兼3	3 担当教員の見直し及び教育内容の充実のため(27) 2 担当教員の見直しのため(26)
			薬との賢い付き合い方	2後		2								兼2	3 担当教員の見直し及び教育内容の充実のため(27)
			出島の科学	2前		2								兼2	3 担当教員の見直しのため(27) 2 教育内容の充実のため(26)
			疾病と薬物治療	2前		2								兼3	2 担当教員の見直し及び教育内容の充実のため(27) 1 担当教員の見直しのため(26)
			自然の中の薬と毒 薬の開発を主題とした動物行動分析と推計学	2後		2								兼1	3 教育課程（科目内容）の見直し、担当教員の見直し及び教育内容の充実のため(27)
			疾病の回復を促進する薬	2前		2								兼1	2 教育内容の充実のため(27) 兼4 教育効果の向上のため(26)
			安全で安心できる社会	医療現場の安全と安心	2後		2								兼1
		自然災害とインフラ長寿命化		2前		2								兼4	3 担当教員の見直しのため(26)
		破壊事故とヒューマンファクタ		2後		2								兼1	
		水環境の安全と安心		2前		2								兼1	
	環境リスクと社会	2前			2								兼1	2 教育内容の充実のため(27)	
	教育と社会	教育相談	2前		2								兼1		
		教育相談	2後		2								兼1		
		文学と社会	2前		2								兼1		
		身のまわりの科学	2後		2								兼1	担当教員の見直しのため(27)	
		芸術	2前		2								兼1	担当教員の見直しのため(27)	
	現代経済と企業活動	環境と社会	2後		2								兼1	担当教員の見直しのため(27)	
		国際社会と日本経済	2後		2								兼1	担当教員の見直しのため(27)	
		地域社会と日本経済	2前		2								兼1	担当教員の見直しのため(27)	
		企業行動と戦略	2後		2								兼1	担当教員の見直しのため(27)	
		社会制度と経済活動	2前		2								兼1	担当教員の見直しのため(27)	
	環境問題を考える	経営情報と会計情報	2前		2								兼1	担当教員の見直しのため(27)	
		生態系と社会 環境と民俗	2後		2			1					兼1	2 教育課程（科目内容）の見直し、担当教員の見直し及び教育内容の充実のため(27) 兼4 担当教員の見直しのため(26)	
		環境と社会運動	2前		2								兼2		

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅡ科目	環境問題を考える	環境問題の歴史から学ぶ	2後	2			+					4 兼 2 担当教員の見直し及び教育内容の充実のため(27)
		地域の環境を考える	2前	2								1 兼 2 担当教員の見直しのため(27)
		海洋生物の遺伝子多様性	2前	2								兼 4 担当教員の昇任のため(27)
	情報社会とコンピュータサイエンス	プログラミングの事始め 問題解決のアルゴリズム	2前	2								兼 1 教育課程(科目内容)の見直しのため(27)
		情報と社会	2前	2								兼 4 1 担当教員の見直しのため(27) 担当教員の退職のため(27)
		情報化の役割と課題	2後	2								兼 2
		情報通信とコンピュータネットワークのしくみ	2後	2								兼 1
		情報化時代の仕事術	2後	2								兼 1
		ソフトウェアの利用技術	2前→後	2								1 兼 2 担当教員の退職のため(27) 教育効果の向上のため(26)
		モバイルウェブアプリケーション開発入門	2前	2								兼 1 教育課程の充実のため(26)
	グローバル社会へのパスポート	企業の国際展開とグローバル人材育成 企業の国際展開とその課題	2後	2		1						教育課程(科目内容)の見直しのため(27)
		世界人口の動向と国際開発	2前	2								兼 1
		英語で学ぶオランダと西欧の文化	2前	2								兼 1
		国際援助と公的部門の役割	2後	2								兼 1
		異文化接触とコミュニケーション	2前	2								兼 1 担当教員の見直しのため(27)
		グローバルな健康問題を取り巻く世界情勢 途上国支援と国際保健	2後	2								兼 1 教育課程(科目内容)の見直しのため(27)
	コミュニケーション実践学 基礎講座学	人間関係の社会学 対人世界の心理学	2前	2								3 兼 4 教育課程(科目内容)の見直し及び教育内容の充実のため(27)
		身体体験に学ぶ心理学 身体・かかわり・言葉	2前	2								兼 1 教育課程(科目内容)の見直しのため(27)
		芸術・スポーツとコミュニケーション	2前	2								兼 2
		メディア・コミュニケーション 社会・メディア・政治	2後	2								兼 1 教育課程(科目内容)の見直しのため(27)
		集団内コミュニケーション 日本語と表現	2後	2								1 兼 2 教育課程(科目内容)の見直し、担当教員の見直しのため(27)
		異文化コミュニケーション	2後	2								兼 2
	核兵器のない世界 を目指して	市民運動・NGOと核兵器廃絶	2後	2								1 兼 2 担当教員の退職のため(27)
		メディアと平和	2前	2			1					兼 4 教育課程の充実のため(27)
		被ばく者と医療	2前	2								兼 4 担当教員の見直しのため(27)
		核兵器廃絶と教育	2前	2								兼 4
		文学・芸術と核兵器	2後	2			1					兼 2
		核軍縮の法と政治	2後	2			1			1		2 兼 4 教育内容の充実のため(27)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手					
教養教育科目	モジュール科目	環境マネージメント	資源・エネルギー問題への取り組み	2前	2								兼3		
			エネルギーマネージメント	2後	2									兼1	
			化学薬品等の取り扱い	2前	2									3 2	教育内容の充実のため(27) 担当教員の見直しのため(26)
			環境汚染物質のマネージメント	2後	2									兼1	
			廃棄物のマネージメント	2後	2									兼1	
			環境分析技術 (advanced class)	未開講 2前	2									兼2	履修希望者がいなかったため(27)
			分子設計と合成化学 暮らしと情報の数理	2前	2									兼2	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
		意思決定の数理 自然を記述するための基礎数学	2前	2									兼1	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)	
		暮らしと電気 暮らしの中の物理科学	2前	2									3 兼2	教育課程(科目内容)の見直し、担当教員の見直し及び教育内容の充実のため(27)	
		物質と化学反応	2後	2									兼1		
		地球環境の科学	2後	2									兼2		
		学部モジュール科目	多文化社会の諸問題	長崎から出発するグローバル世界へ	1後	2			3			1		兼1	
				アジア理解への扉	1後	2		2	2			1			
				アフリカ理解への扉	1後	2			3						
	オランダーヨーロッパ理解への扉			1後	2		1	3					兼1		
	日本を知る			1後	2		1	3							
	グローバルキャリアへの扉			1前	2		2	3					兼1		
	自由選択科目	日本国憲法	1前	2									2 4	担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26)	
		私たちと法	1前	2									兼1		
		日本の思想文化	未開講 1前	2		1								「共生するアジアの多文化社会」を新規に開講するため(27)	
		ジェンダーと法	1後	2									兼1		
		芸術と文化	1後	2									1 兼2	担当教員の見直しのため(26)	
		共生のグローバル人類学	前 1後	2			2	4					兼1	教育内容の充実及び教育効果の向上のため(27) 担当 波佐間逸博(准教授) 平成27年度7月 AC教員審査受審予定	
		社会学	1後	2						1					
		日本の言語と文化	1前	2			1								
		オランダの言語	1前	2									兼1		
		オランダの文化	1後	2									兼1		
平和講座		1前・後	2									7 兼5	教育内容の充実のため(26)		
解放講座		1前・後	2									兼1			
疑似科学とのつき合い方		1前	2									5 兼4	教育内容の充実のため(26)		
キャリア概論	1前	2									3 兼1	教育内容の充実のため(26)			
平成長崎塾	1前	2									4	担当教員の見直し及び教育内容の充実のため(27)			
長崎学	1前・後	2			1						兼1	教育効果の向上のため(26)			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	自分のキャリアを考える講座 ～男女共同 参画とダイバーシティの視点から～ 男女共同参画のすすめ	前 1後		2								兼1	教育課程（科目内容）の見直し 及び教育効果の向上のため(27)	
	物理科学	1後		2								兼1		
	上級外国語（フランス語）	3前		2								兼1		
	上級外国語（中国語）	3前		2		1								
	上級外国語（韓国語）	3前		2								兼1		
	English for Specific Purposes (A)	1前		1								兼1		
	English for Specific Purposes (B)	1後		1								兼1	担当教員の見直しのため(27)	
	全学乗船実習（後期）	1・2後		2								兼1		
	基礎物理	1前・後		2								兼1		
	基礎化学	1前・後		2								兼1		
	基礎生物	1前・後		2								兼1		
	基礎数学	1前・後		2								兼1		
	基礎英語	1前・後		2								兼1		
	特別活動論	1後		2								兼4	2 教育内容の充実のため(27)	
	教育方法・技術論	1前		2								兼1	担当教員の見直しのため(27)	
	生徒・進路指導論	1前		2								兼4	3 教育内容の充実のため(27)	
	English for Specific Purposes (C)	1後		1								兼1	教育課程の充実のため(26)	
	家族社会学	未開講 1前		2			1						2 教育課程の見直しのため(27) 教育課程の充実のため(26)	
	共同授業	1→2前		2								兼4	担当教員の退職のため(27) 教育課程の充実のため(26)	
	宗教学	未開講 1前		2			1						2 教育課程の見直しのため(27) 教育課程の充実のため(26)	
	東アジアの国際関係	未開講 1前		2			1						2 教育課程の見直しのため(27) 教育課程の充実のため(26)	
	文化観光のマーケティング	1後		2		1							2 教育課程の見直しのため(27) 教育課程の充実のため(26)	
	共生するアジアの多文化社会	1前		2		3	6	1					2 教育課程の充実のため(27) 担当 葉柳和則（教授） 首藤明和（教授） 王維（教授） 森川裕二（准教授） 養漢卓娜（准教授） 滝澤克彦（准教授） 野上建紀（准教授） COMPEL RADOMIR（准教授） 小松悟（准教授） 南誠（助教） 平成27年度1月 AC教員審査済 判定可	
	社会文化観光論	未開講 1後					1							2 教育課程の見直しのため(27) 教育課程（科目内容）の見直し のため(27) 担当 王維（教授） 平成27年度1月 AC教員審査済 判定可
	データの科学	1後		2									兼1	教育課程の充実のため(27)
	留学生用科目	日本語中級Ⅱ読解	未開講 1前		2									履修希望者がなかったため (27)
日本語上級Ⅰ 日本語上級ⅠS		1前		2								兼1	教育課程（科目内容）の見直し のため(27)	
日本語上級Ⅱa 日本語上級ⅡS		1前		2		1						兼2	教育課程（科目内容）の見直し 及び担当教員の見直しのため (27)	
日本語上級Ⅱb													2 教育課程（科目内容）の見直し のため(27)	
日本語上級ⅡA		1後		2		1						兼4	2 教育内容の充実のため(26)	
日本事情		1後		2		1								

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置				備 考
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	

- (注)
- ・ 設置計画書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
  - ・ 設置時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時（平成26年度に設置された大学等は設置時）より変更されているものは赤字で見え直し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
  - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
  - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。）
  - ・ 「配当年次」について、設置計画時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成19年度設置以前）についても、設置時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え直し修正をしてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備 考
必 修	選 択	自 由	計	必 修	選 択	自 由	計	
18 科目	155 科目	0 科目	173 科目	18 科目 [ 0 ]	162 科目 [ 7 ]	0 科目 [ 0 ]	180 科目 [ 7 ]	

- (注)
- ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する（資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。）とともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	家族社会学	2	1前	一般	選択	「共生するアジアの多文化社会」を新規に開講することに伴う担当ローテーションの変更のため。代替措置は無し。
2	宗教学	2	1前	一般	選択	「共生するアジアの多文化社会」を新規に開講することに伴う担当ローテーションの変更のため。代替措置は無し。
3	東アジアの国際関係	2	1前	一般	選択	「共生するアジアの多文化社会」を新規に開講することに伴う担当ローテーションの変更のため。代替措置は無し。
4	社会文化観光論	2	1後	一般	選択	「共生するアジアの多文化社会」を新規に開講することに伴う担当ローテーションの変更のため。代替措置は無し。
5	日本の思想文化	2	1前	一般	選択	「共生するアジアの多文化社会」を新規に開講することに伴う担当ローテーションの変更のため。代替措置は無し。

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	共同授業	2	1,2前	一般	選択	教育課程の見直したため。代替措置は無し。
2	文化観光のマーケティング	2	1後	一般	選択	平成26年7月AC教員審査において担当予定教員の判定結果が保留になったため。代替措置は無し。

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「大学の所見」  
 当該科目は自由選択科目であり、これらの科目以外にも自由選択科目は多数開講されているため、未開講及び廃止としても学生への影響はない。

「学生への周知方法」  
 全学生に対して掲示板により周知を行った。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.03}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

## 2 授業科目の概要

### <グローバル社会コース>

#### (1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通基礎モジュール科目	グローバル社会のしくみ	多文化のなかのルール	2前	2			1						
		多文化社会のガバナンス	2前	2			2						
		文化のなかのエコノミー	2前	2			3						
		地域をこえるマネジメント	2後	2			2					兼1	
		ジェンダーと人権	2後	2			2						
		紛争と平和	2後	2			1	2		1		兼1	
	社会を映し出す文化、文化が作り出す社会、文	文化は社会の鏡なのか	2前		2		2	2					
		越境する文化	2後		2		2	3		1			
		出来事と表象のあいだ	2前		2		1	2					
		人間観とコスモロジー	2後		2		2	1					
		他者と生きる技法	2前		2			4		1			
		日本の中の世界、世界の中の日本	2後		2		2	5				兼1	
	多言語を学ぶ、多言語で	英語からたどる文化	2前		2		1	1					
		日本語からたどる文化	2前		2		1	2					
		中国語からたどる文化	2前		2		3						
		アジア諸言語からたどる文化	2後		2			3		1		兼1	
		ヨーロッパ諸言語からたどる文化	2後		2		1	4					
		アフリカ諸言語からたどる文化	2後		2		1	3					
	専門教育科目 フィールドワーク	フィールドワーク入門	1前		2		1	2			0	兼1	担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26)
		フィールドワーク基礎実習	1後		1		0	4			1		担当教員の見直しのため(27)
アーカイヴ実習		1後		1			4						
映像・デジタルアーカイヴ実習		2前		1							兼1		
サーベイ基礎実習		2後		1							兼1		
インタビュー調査基礎実習		2後		1		2	3			0		担当教員の見直しのため(27)	
海外フィールドワーク実習		3通		1			3						
英語モジュール	英語発音法	1前		1			1				兼1	担当教員の見直しのため(27)	
	英語の仕組みと意味Ⅰ	1後		1			1				兼2	担当教員の見直しのため(27)	
	英語の仕組みと意味Ⅱ	2前		1			1				兼2	担当教員の見直しのため(27)	
	Reading and WritingⅠ	1前		1			1				兼2	担当教員の見直しのため(27)	
	Reading and WritingⅡ	2前		1			1				兼2	担当教員の見直しのため(27)	
	Academic WritingⅠ	2後		1			1				兼2		
	Academic WritingⅡ	3前		1			1				兼2		
	Reading and DiscussionⅠ	1前		1			1				兼2	担当教員の見直しのため(27)	
	Reading and DiscussionⅡ	3後		1			1				兼2		
Debate	4前		1			1				兼2			
モジュール中国語	中国語総合表現Ⅰ	2前		1			1						
	中国語総合表現Ⅱ	2後		1			1						
	中国語文献討論Ⅰ	3前		1			1						
	中国語文献討論Ⅱ	3後		1			1						
	中国語プレゼンテーション	4前		1			2						
ジュニア語目	オランダ語Ⅰ	2前		2							兼1		
	オランダ語Ⅱ	2後		2							兼1		
	オランダ語Ⅲ	3前		2							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	グローバル化する世界	国際機構論	3前	2		1						
		軍縮と平和	3前	2		1			1		兼1	
		国際法	3前	2					1			
		国際政治学	3前	2			1					
		比較政治	3前	2			1					
		国際経営	3後	2							兼1	
		国際開発論	3前	2			1					
		国際人権論	3前	2			1					
		グローバル人口学	3前	2			1					
		国際協力論	3後	2			1	1			兼1	
		アジア経済論	3後	2							兼1	
		多文化マーケティング論	3前	2							兼1	
		変容する社会	異文化理解教育	3前	2			1				
	トランスナショナルリティ論		3後	2						1		
	異文化と家族		3前	2			1					
	グローバル社会学		3前	2							兼1	
	現代アフリカ社会論		4前	2			1					
	現代アジア社会論		4前	2			1					
	アジア海域交流史		3後	2			1					
	グローバル文化交流史		4前	2			1					
	社会史		3後	2			1					
	異文化交流論		3後	2			1					
	文化資源論		3後	2			1					
	地域生態論	3後	2			1						
	多文化の共生	日本思想史	4前	2		1						
		中国思想史	4前	2		1						
		宗教文化論	3前	2			1					
		文化表象論	3前	2		1						
		記憶文化論	3後	2							兼1	
		地域文化論	3後	2			2					
		メディア文化論	4前	2			1					
		現代言語理論	3前	2		1						
		異文化間コミュニケーション	3前	2			1					
		対照言語学	3後	2		1						
		日本語学	3前	2			1					
	コーパス言語学	3後	2		1							
	オランダ	オランダ現代社会論	2後	2							兼1	
		オランダ文化論	2 3前	2							兼1	教育効果の向上のため(27)
		日蘭比較文化	3 2前	2							兼1	教育効果の向上のため(27)
		日蘭交流史	3前	2			1					
	キャリア	キャリア形成論	3前	2		1						
		自主企画インターンシップ	通 2前	2		1						教育効果の向上のため(27)
	演習科目	基礎演習A	2前	1		3 4	6 17		1 2			担当教員の見直しのため(27)
		基礎演習B	2後	1		1 4	9 17		0 2			担当教員の見直しのため(27)
専門演習Ⅰ-A		3前	1		10	17		2				
専門演習Ⅱ-A		3後	1		10	17		2				
専門演習Ⅰ-B		3前	1		10	17		2				
専門演習Ⅱ-B		3後	1		10	17		2				
卒業研究		4通	6		10	17		2				
自由選択科目	英米文学概論	2前	2							兼1		
	応用言語学	2後	2							兼1		
	英語音声のしくみと働き	3後	2							兼1		
	第二言語習得論	3前	2							兼1		
	イギリス小説論	3後	2							兼1		



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	自由科目											
	日本語教育学概論	2後			2							兼1
	日本語指導法	3前			2							兼1
	日本語教育実習	3後			2							兼1

- (注) ・ 設置計画書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成26年度に設置された大学等は設置時)より変更されているものは赤字で見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
- ・ 「配当年次」について、設置計画時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度設置以前)についても、設置時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

## (2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
26	71	3	100	26	71	3	100	
				[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当無し					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当無し					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当無し
------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位までを記入してください。

## 2 授業科目の概要

### <社会動態コース>

#### (1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通基礎モジュール科目	グローバル社会のしくみ	多文化のなかのルール	2前		2		1							
		多文化社会のガバナンス	2前		2			2						
		文化のなかのエコノミー	2前		2			3						
		地域をこえるマネジメント	2後		2		2					兼1		
		ジェンダーと人権	2後		2			2						
		紛争と平和	2後		2		1	2			1		兼1	
	社会を映し出す文化、文化が作り出す社会、文	文化は社会の鏡なのか	2前	2			2	2						
		越境する文化	2後	2			2	3		1				
		出来事と表象のあいだ	2前	2			1	2						
		人間観とコスモロジー	2後	2			2	1						
		他者と生きる技法	2前	2				4		1				
		日本の中の世界、世界の中の日本	2後	2			2	5					兼1	
	多言語を学ぶ、多言語で	英語からたどる文化	2前		2		1	1						
		日本語からたどる文化	2前		2		1	2						
		中国語からたどる文化	2前		2		3							
		アジア諸言語からたどる文化	2後		2			3		1			兼1	
		ヨーロッパ諸言語からたどる文化	2後		2		1	4						
		アフリカ諸言語からたどる文化	2後		2		1	3						
	専門教育科目 フィールドワーク	フィールドワーク入門		1前	2			1 0 2	2 4 9		0 4		兼1	担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26)
		フィールドワーク基礎実習		1後	1			0 2	4 9		1			担当教員の見直しのため(27)
アーカイヴ実習		1後		1			4							
映像・デジタルアーカイヴ実習		2前		1							兼1			
サーベイ基礎実習		2後		1							兼1			
インタビュー調査基礎実習		2後		1		2	1 3		0 4			担当教員の見直しのため(27)		
海外フィールドワーク実習		3通		1			3							
英語モジュール科目	英語発音法		1前	1				1				兼1 2	担当教員の見直しのため(27)	
	英語の仕組みと意味Ⅰ		1後	1			1					兼1 2	担当教員の見直しのため(27)	
	英語の仕組みと意味Ⅱ		2前	1			1					兼1 2	担当教員の見直しのため(27)	
	Reading and Writing Ⅰ		1前	1				1				兼1 2	担当教員の見直しのため(27)	
	Reading and Writing Ⅱ		2前	1				1				兼1 2	担当教員の見直しのため(27)	
	Academic Writing Ⅰ		2後	1				1				兼2		
	Academic Writing Ⅱ		3前	1				1				兼2		
	Reading and Discussion Ⅰ		1前	1				1				兼1 2	担当教員の見直しのため(27)	
	Reading and Discussion Ⅱ		3後	1				1				兼2		
	Debate		4前	1				1				兼2		
モジュール中国語科目	中国語総合表現Ⅰ		2前		1		1							
	中国語総合表現Ⅱ		2後		1		1							
	中国語文献討論Ⅰ		3前		1		1							
	中国語文献討論Ⅱ		3後		1		1							
	中国語プレゼンテーション		4前		1		2							
オランダ語モジュール科目	オランダ語Ⅰ		2前		2							兼1		
	オランダ語Ⅱ		2後		2							兼1		
	オランダ語Ⅲ		3前		2							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	グローバル化する世界	国際機構論	3前	2			1						
		軍縮と平和	3前	2			1			1		兼1	
		国際法	3前	2						1			
		国際政治学	3前	2				1					
		比較政治	3前	2				1					
		国際経営	3後	2								兼1	
		国際開発論	3前	2				1					
		国際人権論	3前	2				1					
		グローバル人口学	3前	2				1					
		国際協力論	3後	2				1	1			兼1	
		アジア経済論	3後	2								兼1	
		多文化マーケティング論	3前	2								兼1	
		変容する社会	異文化理解教育	3前	2				1				
	トランスナショナルリティ論		3後	2						1			
	異文化と家族		3前	2				1					
	グローバル社会学		3前	2								兼1	
	現代アフリカ社会論		4前	2				1					
	現代アジア社会論		4前	2				1					
	アジア海域交流史		3後	2				1					
	グローバル文化交流史		4前	2				1					
	社会史		3後	2				1					
	異文化交流論		3後	2				1					
	文化資源論		3後	2				1					
	地域生態論	3後	2				1						
	多文化の共生	日本思想史	4前	2			1						
		中国思想史	4前	2			1						
		宗教文化論	3前	2				1					
		文化表象論	3前	2			1						
		記憶文化論	3後	2								兼1	
		地域文化論	3後	2				2					
		メディア文化論	4前	2				1					
		現代言語理論	3前	2			1						
		異文化間コミュニケーション	3前	2				1					
		対照言語学	3後	2			1						
		日本語学	3前	2				1					
	コーパス言語学	3後	2			1							
	オランダ	オランダ現代社会論	2後	2								兼1	
		オランダ文化論	2 3前	2								兼1	教育効果の向上のため(27)
		日蘭比較文化	3 2前	2								兼1	教育効果の向上のため(27)
		日蘭交流史	3前	2				1					
	キャリア	キャリア形成論	3前	2			1						
		自主企画インターンシップ	通 2前	2			1						教育効果の向上のため(27)
	演習科目	基礎演習A	2前	1			3 4	6 17		1 2			担当教員の見直しのため(27)
基礎演習B		2後	1			1 4	9 17		0 2			担当教員の見直しのため(27)	
専門演習Ⅰ-A		3前	1			10	17		2				
専門演習Ⅱ-A		3後	1			10	17		2				
専門演習Ⅰ-B		3前	1			10	17		2				
専門演習Ⅱ-B		3後	1			10	17		2				
卒業研究		4通	6			10	17		2				
自由選択科目	英米文学概論	2前		2							兼1		
	応用言語学	2後		2							兼1		
	英語音声のしくみと働き	3後		2							兼1		
	第二言語習得論	3前		2							兼1		
	イギリス小説論	3後		2							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目 自由科目	日本語教育学概論	2後			2						兼1	
	日本語指導法	3前			2						兼1	
	日本語教育実習	3後			2						兼1	

- (注)
- ・ 設置計画書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 設置時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成26年度に設置された大学等は設置時)より変更されているものは赤字で見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。  
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
  - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
  - ・ 「配当年次」について、設置計画時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度設置以前)についても、設置時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

## (2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 26	科目 71	科目 3	科目 100	科目 26 [ 0 ]	科目 71 [ 0 ]	科目 3 [ 0 ]	科目 100 [ 0 ]	

- (注)
- ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当無し					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当無し					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当無し
------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位までを記入してください。

## 2 授業科目の概要

### <共生文化コース>

#### (1) 授業科目表

科目 区分	授業科目の名称		配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
				必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手			
共通基礎モジュール科目	グローバル社会のしくみ	多文化のなかのルール	2前		2		1							
		多文化社会のガバナンス	2前		2			2						
		文化のなかのエコノミー	2前		2			3						
		地域をこえるマネジメント	2後		2		2					兼 1		
		ジェンダーと人権	2後		2			2						
		紛争と平和	2後		2		1	2			1		兼 1	
	文化が作り出す社会、文化	文化は社会の鏡なのか	2前		2		2	2						
		越境する文化	2後		2		2	3			1			
		出来事と表象のあいだ	2前		2		1	2						
		人間観とコスモロジー	2後		2		2	1						
		他者と生きる技法	2前		2			4			1			
		日本の中の世界、世界の中の日本	2後		2		2	5					兼 1	
	多言語を学ぶ、多言語で	英語からたどる文化	2前		2		1	1						
		日本語からたどる文化	2前		2		1	2						
		中国語からたどる文化	2前		2			3						
		アジア諸言語からたどる文化	2後		2			3			1		兼 1	
		ヨーロッパ諸言語からたどる文化	2後		2		1	4						
			アフリカ諸言語からたどる文化	2後		2	1	3						
	専門教育科目 フィールドワーク	フィールドワーク入門	1前	2			1 0 2	2 4 9			0 4		兼 1	担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26)
		フィールドワーク基礎実習	1後	1			0 2	4 9			1			担当教員の見直しのため(27)
アーカイヴ実習		1後		1			4							
映像・デジタルアーカイヴ実習		2前		1								兼 1		
サーベイ基礎実習		2後		1								兼 1		
インタビュー調査基礎実習		2後		1		2	1 3			0 4			担当教員の見直しのため(27)	
海外フィールドワーク実習		3通		1			3							
英語モジュール科目	英語発音法	1前	1				1					兼 1 2	担当教員の見直しのため(27)	
	英語の仕組みと意味 I	1後	1			1						兼 1 2	担当教員の見直しのため(27)	
	英語の仕組みと意味 II	2前	1			1						兼 1 2	担当教員の見直しのため(27)	
	Reading and Writing I	1前	1				1					兼 1 2	担当教員の見直しのため(27)	
	Reading and Writing II	2前	1				1					兼 1 2	担当教員の見直しのため(27)	
	Academic Writing I	2後	1				1					兼 2		
	Academic Writing II	3前	1				1					兼 2		
	Reading and Discussion I	1前	1				1					兼 1 2	担当教員の見直しのため(27)	
	Reading and Discussion II	3後	1				1					兼 2		
Debate	4前	1				1					兼 2			
モジュール中国語科目	中国語総合表現 I	2前		1		1								
	中国語総合表現 II	2後		1		1								
	中国語文献討論 I	3前		1		1								
	中国語文献討論 II	3後		1		1								
	中国語プレゼンテーション	4前		1		2								
モジュールオランダ語科目	オランダ語 I	2前		2								兼 1		
	オランダ語 II	2後		2								兼 1		
	オランダ語 III	3前		2								兼 1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	グローバル化する世界	国際機構論	3前	2		1						
		軍縮と平和	3前	2		1			1		兼1	
		国際法	3前	2					1			
		国際政治学	3前	2			1					
		比較政治	3前	2			1					
		国際経営	3後	2							兼1	
		国際開発論	3前	2			1					
		国際人権論	3前	2			1					
		グローバル人口学	3前	2			1					
		国際協力論	3後	2			1	1			兼1	
		アジア経済論	3後	2							兼1	
		多文化マーケティング論	3前	2							兼1	
		変容する社会	異文化理解教育	3前	2			1				
	トランスナショナルリティ論		3後	2					1			
	異文化と家族		3前	2			1					
	グローバル社会学		3前	2							兼1	
	現代アフリカ社会論		4前	2			1					
	現代アジア社会論		4前	2			1					
	アジア海域交流史		3後	2			1					
	グローバル文化交流史		4前	2			1					
	社会史		3後	2			1					
	異文化交流論		3後	2			1					
	文化資源論		3後	2			1					
	地域生態論	3後	2			1						
	多文化の共生	日本思想史	4前	2		1						
		中国思想史	4前	2		1						
		宗教文化論	3前	2			1					
		文化表象論	3前	2			1					
		記憶文化論	3後	2							兼1	
		地域文化論	3後	2				2				
		メディア文化論	4前	2				1				
		現代言語理論	3前	2			1					
		異文化間コミュニケーション	3前	2				1				
		対照言語学	3後	2			1					
		日本語学	3前	2				1				
	コーパス言語学	3後	2			1						
	オランダ	オランダ現代社会論	2後	2							兼1	
		オランダ文化論	2 3前	2							兼1	教育効果の向上のため(27)
		日蘭比較文化	3 2前	2							兼1	教育効果の向上のため(27)
		日蘭交流史	3前	2			1					
	キャリア	キャリア形成論	3前	2			1					
		自主企画インターンシップ	通 2前	2			1					教育効果の向上のため(27)
	演習科目	基礎演習A	2前	1			3 4	6 17		1 2		担当教員の見直しのため(27)
		基礎演習B	2後	1			1 4	9 17		0 2		担当教員の見直しのため(27)
		専門演習 I-A	3前	1			10	17		2		
専門演習 II-A		3後	1			10	17		2			
専門演習 I-B		3前	1			10	17		2			
専門演習 II-B		3後	1			10	17		2			
卒業研究		4通	6			10	17		2			
自由選択科目	英米文学概論	2前		2						兼1		
	応用言語学	2後		2						兼1		
	英語音声のしくみと働き	3後		2						兼1		
	第二言語習得論	3前		2						兼1		
	イギリス小説論	3後		2						兼1		



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	計	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 教育 科目	自由 科目	教職論	1後 未開講 1後			2						兼 1	通常開講(27) 教職課程認定申請を取り下げた ことに伴う未開講(26)
		英語科教育法Ⅰ	3前			2						兼 1	
		英語科教育法Ⅱ	3後			2						兼 1	
		教育の方法と技術	3後			2						兼 1	
		教育実習(事前・事後指導を含む)	4前			3	1					兼 2	
		教職実践演習	4後			2	1					兼 3	
		日本語教育学概論	2後			2						兼 1	
		日本語指導法	3前			2						兼 1	
		日本語教育実習	3後			2						兼 1	

- (注) ・ 設置計画書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成26年度に設置された大学等は設置時)より変更されているものは赤字で見え直し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
  - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
  - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
  - ・ 「配当年次」について、設置計画時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度設置以前)についても、設置時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え直し修正をしてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

## (2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
23	74	9	106	23	74	9	106	
				[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当無し					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当無し					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当無し
------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位までを記入してください。

## 2 授業科目の概要

<オランダ特別コース>

### (1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通基礎モジュール科目	グローバル社会のしくみ	多文化のなかのルール	2前		2		1							
		多文化社会のガバナンス	2前		2			2						
		文化のなかのエコノミー	2前		2			3						
		地域をこえるマネジメント	2後		2		2					兼 1		
		ジェンダーと人権	2後		2			2						
		紛争と平和	2後		2		1	2		1		兼 1		
	社会が作り出す文化、文化を映し出す社会	文化は社会の鏡なのか	2前		2		2	2						
		越境する文化	2後		2		2	3		1				
		出来事と表象のあいだ	2前		2		1	2						
		人間観とコスモロジー	2後		2		2	1						
		他者と生きる技法	2前		2			4		1				
		日本の中の世界、世界の中の日本	2後		2		2	5				兼 1		
	多言語を学ぶ、多言語で	英語からたどる文化	2前		2		1	1						
		日本語からたどる文化	2前		2		1	2						
		中国語からたどる文化	2前		2		3							
		アジア諸言語からたどる文化	2後		2			3		1		兼 1		
		ヨーロッパ諸言語からたどる文化	2後		2		1	4						
		アフリカ諸言語からたどる文化	2後		2		1	3						
	専門教育科目	フィールドワーク	フィールドワーク入門	1前	2			1 0 2	2 4 9		0 1		兼 1	担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26)
			フィールドワーク基礎実習	1後	1			0 2	4 9		1			担当教員の見直しのため(27)
			アーカイブ実習	1後		1				4				
			映像・デジタルアーカイブ実習	2前		1							兼 1	
			サーベイ基礎実習	2後		1							兼 1	
			インタビュー調査基礎実習	2後		1		2	1 3		0 1			担当教員の見直しのため(27)
			海外フィールドワーク実習	3通		1				3				
	英語モジュール科目	英語発音法	1前	1					1			兼 1 2	担当教員の見直しのため(27)	
英語の仕組みと意味 I		1後	1				1				兼 1 2	担当教員の見直しのため(27)		
英語の仕組みと意味 II		2前	1				1				兼 1 2	担当教員の見直しのため(27)		
Reading and Writing I		1前	1					1			兼 1 2	担当教員の見直しのため(27)		
Reading and Writing II		2前	1					1			兼 1 2	担当教員の見直しのため(27)		
Academic Writing I		2後	1					1			兼 2			
Academic Writing II		3前	1					1			兼 2			
Reading and Discussion I		1前	1					1			兼 1 2	担当教員の見直しのため(27)		
Reading and Discussion II		3後	1					1			兼 2			
Debate		4前	1					1			兼 2			
モジュール科目	中国語	中国語総合表現 I	2前		1		1							
		中国語総合表現 II	2後		1		1							
		中国語文献討論 I	3前		1		1							
		中国語文献討論 II	3後		1		1							
		中国語プレゼンテーション	4前		1		2							
オランダ語モジュール科目	オランダ語 I	2前	2								兼 1			
	オランダ語 II	2後	2								兼 1			
	オランダ語 III	3前	2								兼 1			

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
専門モジュール科目  専門教育科目	グローバル化する世界	国際機構論	3前	2		1						
		軍縮と平和	3前	2		1			1		兼1	
		国際法	3前	2					1			
		国際政治学	3前	2			1					
		比較政治	3前	2			1					
		国際経営	3後	2								兼1
		国際開発論	3前	2			1					
		国際人権論	3前	2			1					
		グローバル人口学	3前	2			1					
		国際協力論	3後	2			1	1				兼1
		アジア経済論	3後	2								兼1
		多文化マーケティング論	3前	2								兼1
	変容する社会	異文化理解教育	3前	2			1					
		トランスナショナルリティ論	3後	2					1			
		異文化と家族	3前	2			1					
		グローバル社会学	3前	2								兼1
		現代アフリカ社会論	4前	2			1					
		現代アジア社会論	4前	2			1					
		アジア海域交流史	3後	2			1					
		グローバル文化交流史	4前	2			1					
		社会史	3後	2			1					
		異文化交流論	3後	2			1					
		文化資源論	3後	2			1					
		地域生態論	3後	2			1					
	多文化の共生	日本思想史	4前	2			1					
		中国思想史	4前	2			1					
		宗教文化論	3前	2			1					
		文化表象論	3前	2			1					
		記憶文化論	3後	2								兼1
		地域文化論	3後	2				2				
		メディア文化論	4前	2				1				
		現代言語理論	3前	2			1					
		異文化間コミュニケーション	3前	2				1				
		対照言語学	3後	2			1					
		日本語学	3前	2				1				
		コーパス言語学	3後	2			1					
	オランダ	オランダ現代社会論	2後	2								兼1
		オランダ文化論	2 3前	2								兼1 教育効果の向上のため(27)
		日蘭比較文化	3 2前	2								兼1 教育効果の向上のため(27)
		日蘭交流史	3前	2				1				
	キャリア	キャリア形成論	3前	2			1					
		自主企画インターンシップ	通 2前		2		1					教育効果の向上のため(27)
	演習科目	基礎演習A	2前	1			3 4	6 17		1 2		担当教員の見直しのため(27)
基礎演習B		2後	1			1 4	9 17		0 2		担当教員の見直しのため(27)	
特別研究		3~4通	10			10	17		2			
自由選択科目	英米文学概論	2前		2							兼1	
	応用言語学	2後		2							兼1	
	英語音声のしくみと働き	3後		2							兼1	
	第二言語習得論	3前		2							兼1	
	イギリス小説論	3後		2							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目教育	日本語教育学概論	2後			2						兼1	
	日本語指導法	3前			2						兼1	
	日本語教育実習	3後			2						兼1	

- (注) ・ 設置計画書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成26年度に設置された大学等は設置時)より変更されているものは赤字で見え直し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
  - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
  - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
  - ・ 「配当年次」について、設置計画時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度設置以前)についても、設置時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え直し修正をしてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
23	70	3	96	23	70	3	96	
				[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当無し					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当無し					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当無し
------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位までを記入してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考					
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	その他の内、借用面積47㎡を含み、昭和40年4月1日より借入。  校地面積に算入される大学用地の見直し及び改修工事のため(26)					
	校舎敷地	280,586㎡ <del>283,413㎡</del>	0㎡	0㎡	280,586㎡ <del>283,413㎡</del>						
	運動場用地	100,475㎡ <del>109,613㎡</del>	12,796㎡ 0㎡	0㎡	113,271㎡ <del>109,613㎡</del>						
	小 計	381,061㎡ <del>393,026㎡</del>	12,796㎡ 0㎡	0㎡	393,857㎡ <del>393,026㎡</del>						
	そ の 他	157,771㎡ <del>265,667㎡</del>	107,490㎡ 0㎡	0㎡	265,261㎡ <del>265,667㎡</del>						
	合 計	538,832㎡ <del>658,693㎡</del>	120,286㎡ 0㎡	0㎡	659,118㎡ <del>658,693㎡</del>						
(2) 校 舎	専 用	187,914㎡ <del>216,050㎡</del>	0㎡	0㎡	187,914㎡ <del>216,050㎡</del>	改修工事のため(26)					
	187,914㎡ (216,050㎡)	( 0㎡)	( 0㎡)	187,914㎡ (216,050㎡)							
(3) 教 室 等	講 義 室	101室	205室 217室	525室 617室	20室 (補助職員 人)	3室 (補助職員 人)					
	演 習 室										
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		学内センター・研究科所属の専任教員を除く。数に誤りがあったため(26)					
	多文化社会学部多文化社会学科			24 26 室							
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	(大学全体の共用分) 図書 1,041,000 [306,000] (1,010,220 [294,450]) <del>1,032,473 [305,823]- (997,433 [295,444])</del> 視聴覚資料 6,200 (6,002) <del>8,521 (5,912)</del>			
		[うち外国書] 冊	[うち外国書] 種	電子ジャーナル [うち外国書]							
		多文化社会学部	24,000 [7,000] <del>26,000 [7,800]</del>	21,000 [19,000] <del>22,000 [21,000]</del>					6,200 8,521	0	0
		計	24,000 [7,000] <del>(24,800 [7,500])</del>	21,000 [19,000] <del>22,000 [21,000]</del>					6,200 8,521	0	0
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体				
	10,702 ㎡ <del>10,656 ㎡</del> 10,126 ㎡		1,271 席 <del>1,268 席</del> 1,180 席		965,000 冊 <del>962,000 冊</del> 945,167 冊		医学分館改修及び中央図書館の充実のため(26)				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体				
	12,541 ㎡		運動場、弓道場、テニスコート、ハンドボールコート、プール等								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費による		
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円			
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円				
	学生1人当り	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	納付金	千円	千円	千円	千円	千円	千円				
学生納付金以外の維持方法の概要											

- (注) ・ 設置時の計画を、設置計画書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成27年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(27)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。

#### 4 既設大学等の状況

大学の名称	長崎大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学定員	収定容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
【学部】	年	人	年次人	人		倍			
多文化社会学部 多文化社会学科	4	100	—	200	学士(多文化社会学)	0.88	平成26年度	長崎市文教町1-14	
教育学部 学校教育教員養成課程	4	240	—	960	学士(教育学)	1.00	平成10年度	長崎市文教町1-14	
経済学部 総合経済学科			3年次						
昼間コース	4	265	10	1,260	学士(経済学)	1.02	平成10年度	長崎市片淵4-2-1	
夜間主コース	4	60	5	250	〃	1.00	〃	〃	
医学部 医学科	6	116	2年次 5	720	学士(医学)	1.00	昭和24年度	長崎市坂本1-12-4	
保健学科	4	106	3年次 14	452	学士(看護学) 学士(保健学)	1.00	平成14年度	長崎市坂本1-7-1	
歯学部 歯学科	6	50	—	300	学士(歯学)	1.00	昭和55年度	長崎市坂本1-7-1	
薬学部 薬学科	6	40	—	240	学士(薬学)	1.02	平成18年度	長崎市文教町1-14	
薬科学科	4	40	—	160	学士(薬科学)	1.05	昭和61年度	〃	
工学部 工学科	4	380	—	1,520	学士(工学)	1.04	平成23年度	長崎市文教町1-14	平成23年度より 学生募集停止 (各学科共通の 編入学定員は、 学年進行に伴い 平成25年度より 学生募集停止 )
機械システム工学科	4	—	—	—	〃	—	平成2年度	〃	
電気電子工学科	4	—	—	—	〃	—	平成10年度	〃	
情報システム工学科	4	—	—	—	〃	—	〃	〃	
構造工学科	4	—	—	—	〃	—	昭和42年度	〃	
社会開発工学科	4	—	—	—	〃	—	平成3年度	〃	
材料工学科	4	—	—	—	〃	—	昭和45年度	〃	
応用化学科	4	—	—	—	〃	—	平成3年度	〃	
各学科共通		—	3年次 —	—		—	平成18年度		
環境科学部 環境科学科	4	130	3年次 5	555	学士(環境科学)	1.01	平成10年度	長崎市文教町1-14	
水産学部 水産学科	4	110	—	440	学士(水産学)	1.03	昭和48年度	長崎市文教町1-14	



【研究科】									
教育学研究科 (修士課程) 教科実践専攻 (専門職学位課程) 教職実践専攻	2	—	—	—	修士(教育学)	—	平成20年度	長崎市文教町1-14	教科実践専攻は、平成26年度より学生募集停止
	2	38	—	76	教職修士(専門職)	0.79	平成26年度	長崎市文教町1-14	
経済学研究科 (博士前期課程) 経済経営政策専攻  (博士後期課程) 経営意思決定専攻	2	15	—	30	修士(経済学) 修士(経営学)	0.99	平成16年度	長崎市片淵4-2-1	
	3	3	—	9	博士(経営学)	1.11	平成16年度	長崎市片淵4-2-1	
工学研究科 (博士前期課程) 総合工学専攻 (博士後期課程) 生産システム工学専攻 (博士課程) グリーンシステム創成科学専攻	2	220	—	420	修士(工学)	1.06	平成23年度	長崎市文教町1-14	
	3	15	—	35	博士(工学)	1.26	平成23年度	長崎市文教町1-14	
	5	5	—	25	博士(工学)	0.88	平成23年度	長崎市文教町1-14	
水産・環境科学総合研究科 (博士前期課程) 水産学専攻  環境科学専攻  環境共生政策学専攻 環境保全設計学専攻 (博士後期課程) 環境海洋資源学専攻  (博士課程) 海洋フィールド生命科学専攻	2	35	—	70	修士(学術) 修士(水産学)	0.92	平成23年度	長崎市文教町1-14	環境共生政策学専攻及び環境保全設計学専攻は平成27年度より学生募集停止
	2	25	—	25	修士(学術) 修士(環境科学)	0.84	平成27年度	〃	
	2	—	—	—	〃	—	平成23年度	〃	
	2	—	—	—	〃	—	平成23年度	〃	
	3	12	—	36	博士(学術) 博士(水産学) 博士(環境科学)	1.07	平成23年度	長崎市文教町1-14	
5	5	—	25	博士(水産学) 博士(環境科学) 博士(海洋科学)	0.60	平成23年度	長崎市文教町1-14		
生産科学研究科 (博士後期課程) システム科学専攻  海洋生産科学専攻 環境科学専攻	3	—	—	—	博士(学術) 博士(工学) 博士(水産学) 博士(環境科学)	—	平成12年度	長崎市文教町1-14	システム科学専攻、海洋生産科学専攻、環境科学専攻は、平成23年度より学生募集停止
	3	—	—	—	〃	—	平成13年度	〃	
	3	—	—	—	〃	—	平成16年度	〃	

医歯薬学総合研究科 (修士課程) 熱帯医学専攻 保健学専攻  (博士課程) 医療科学専攻  新興感染症病態制御学系専攻  放射線医療科学専攻  (博士前期課程) 生命薬科学専攻 (博士後期課程) 生命薬科学専攻	1	—	—	—	修士(熱帯医学)	—	平成18年度	長崎市坂本1-12-4	熱帯医学専攻は平成27年度より学生募集停止
	2	20	—	40	修士(看護学) 修士(理学療法学) 修士(作業療法学)	1.02	平成18年度	長崎市坂本1-7-1	
	4	62	—	248	博士(学術) 博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学)	1.13	平成14年度	長崎市坂本1-12-4	
	4	20	—	80	博士(学術) 博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学)	1.13	平成14年度	〃	
	4	8	—	32	〃	0.90	平成14年度	〃	
	2	36	—	72	修士(薬科学)	0.99	平成24年度	長崎市文教町1-14	
	3	10	—	30	博士(学術) 博士(薬科学)	0.80	平成24年度	長崎市文教町1-14	
	2	—	—	—	修士(公衆衛生学)	—	平成20年度	長崎市坂本1-12-4	
	1	27	—	27	修士(熱帯医学)	—	平成27年度	長崎市坂本1-12-4	
	2				修士(公衆衛生学)				
2				修士(医科学)					
国際健康開発研究科 (修士課程) 国際健康開発専攻	2	—	—	—	修士(公衆衛生学)	—	平成20年度	長崎市坂本1-12-4	国際健康開発専攻は平成27年度より学生募集停止
熱帯医学・グローバルヘルス研究科 (修士課程) グローバルヘルス専攻 熱帯医学コース 国際健康開発コース ヘルスイノベーションコース	1	27	—	27	修士(熱帯医学)	—	平成27年度	長崎市坂本1-12-4	平成27年10月より学生受入
	2				修士(公衆衛生学)				
	2				修士(医科学)				

- (注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(国立大学法人)が設置している全ての大学(学部, 学科)及び大学院(専攻)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成27年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・ 学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
  - ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
  - ・ 専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
  - ・ AC対象学部等についても必ず記入してください。
  - ・ 「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
  - ・ 学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<共通>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	梅林 宏道	平成26年4月	核兵器とは何か 市民運動・NGOと核兵器廃絶					核兵器とは何か 市民運動・NGOと核兵器廃絶	担当教員の退職のため(27)
兼任	教授	大井 久美子	平成26年4月	男女共同参画のすすめ	兼任	教授	伊東 昌子	平成26年4月	自分のキャリアを考える講座～男女共同参画とダイバーシティの視点から～ 男女共同参画のすすめ	教育課程(科目内容)の見直しのため(27) 担当教員の退職のため(26)
兼任	教授	柴多 一雄	平成26年4月	地域社会と日本経済	兼任	教授	福澤 勝彦	平成27年4月	地域社会と日本経済	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	赤石 孝次	平成26年4月	地域社会と日本経済	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	高橋 正克	平成26年4月	薬の開発を主題とした動物行動分析と推計学 平成長崎塾	兼任	教授	田中 隆	平成27年4月	自然の中の薬と毒	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
					兼任	講師	高橋 正克	平成27年4月	平成長崎塾	担当教員の見直しのため(27)
兼任	教授	中西 こずえ	平成26年4月	生物多様性を考える	兼任	教授	井口 恵一郎	平成27年4月	生物多様性を考える	担当教員の見直しのため(27)
兼任	教授	藤井 美知子	平成26年4月	情報の活用 情報化の役割と課題 ソフトウェアの利用技術					情報の活用 情報化の役割と課題 ソフトウェアの利用技術	担当教員の退職のため(27)
兼任	教授	三根 真理子	平成26年4月	情報と社会 被ばくと社会 被ばく者と医療	兼任	講師	三根 真理子	平成27年4月	情報と社会 被ばく者と医療	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	鈴木 達治郎	平成27年4月	被ばくと社会	担当教員の見直しのため(27)
兼任	教授	柳田 泰典	平成26年4月	特別活動論	兼任	講師	柳田 泰典	平成26年4月	特別活動論	担当教員の見直しのため(27)
兼任	教授	小原 達朗	平成26年4月	芸術・スポーツとコミュニケーション スポーツ演習 健康科学	兼任	教授	小原 達朗	平成26年4月	生徒・進路指導論 芸術・スポーツとコミュニケーション	教育内容の充実のため(27)
					兼任	准教授	峰松 和夫	平成27年4月	スポーツ演習	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	西澤 昭	平成26年4月	スポーツ演習	担当教員の見直しのため(26)
					兼任	准教授	永橋 美幸	平成27年4月	健康科学	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	西澤 昭	平成26年4月	健康科学	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	野崎 剛一	平成26年4月	計算機の科学	兼任	教授	野崎 剛一	平成26年4月	計算機の科学 プログラミングの事始め 問題解決のアルゴリズム	教育課程(科目内容)の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	畑山 範	平成26年4月	伝承薬から最先端医薬品までⅡ	兼任	教授	畑山 範	平成27年4月	伝承薬から最先端医薬品までⅡ	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	尾野村 治	平成26年4月	伝承薬から最先端医薬品までⅡ	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	江頭 明文	平成26年4月	生徒・進路指導論	兼任	准教授	楠山 研	平成27年4月	教育行政・制度論	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	江頭 明文	平成26年4月	教育行政・制度論 生徒・進路指導論	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	甲斐 雅亮	平成26年4月	生命科学のための物理化学入門	兼任	教授	甲斐 雅亮	平成27年4月	ビギナーのための物理化学	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	黒田 直敬	平成26年4月	生命科学のための物理化学入門	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	高山 久明	平成26年4月	全学乗船実習 教育方法・技術論	兼任	教授	高山 久明	平成26年4月	全学乗船実習	
					兼任	教授	若菜 啓孝	平成27年4月	教育方法・技術論	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	講師	藤井 佑介	平成26年4月	教育方法・技術論	担当教員の見直しのため(26)

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	教授	早瀬 隆司	平成26年4月	環境リスクと社会						
兼任	教授	原田 純治	平成26年4月	教育心理	兼任	教授	吉田 ゆり	平成27年4月	教育心理	担当教員の見直しのため(27)
兼任	教授	末吉 豊	平成26年4月	数学の常識	兼任	教授	小林 透	平成26年4月	暮らしの中の情報科学	教育課程(科目内容)及び担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	中山 守雄	平成26年4月	出島の科学						
兼任	教授	堀内 伊吹	平成26年4月	芸術と文化						
兼任	教授	宮西 隆幸	平成26年4月	環境問題の歴史から学ぶ						
兼任	教授	山内 正毅	平成26年4月	スポーツ演習	兼任	講師	田中 志保	平成26年4月	スポーツ演習	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	茅田 彰秀	平成26年4月	暮らしの中の物理学 地球環境の科学	兼任	教授	黒川 不二雄	平成27年4月	暮らしと電気	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	茅田 彰秀	平成26年4月	暮らしの中の物理学 地球環境の科学 身の回りの中の物理学	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	田井村 明博	平成26年4月	健康科学	兼任	助教	蔵本 明子	平成27年4月	健康科学	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	准教授	荒木 美幸	平成26年4月	健康科学	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	戸田 清	平成26年4月	環境と社会運動 平和講座						
兼任	教授	林 秀千人	平成26年4月	科学と技術の安全・安心						
兼任	教授	蒔田 直昌	平成26年4月	人体の構造と機能	兼任	准教授	佐藤 克也	平成27年4月	エイズについて考える	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
兼任	教授	由井 克之	平成26年4月	免疫と病気						
兼任	教授	篠原 一之	平成26年4月	コミュニケーションの生物学					コミュニケーションの生物学	担当教員の見直しのため(27)
兼任	教授	田中 隆	平成26年4月	ビギナーのための有機化学	兼任	教授	田中 正一	平成26年4月	ビギナーのための有機化学	担当教員の見直しのため(26)
				医療現場の安全と安心	兼任	教授	小関 弘展	平成27年4月	医療現場の安全と安心	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	安田 二郎	平成26年4月	医療現場の安全と安心	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	弦本 敏行	平成26年4月	人体の構造と機能	兼任	教授	西田 教行	平成27年4月	エイズについて考える	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
兼任	教授	永山 雄二	平成26年4月	細胞と放射線	兼任	教授	柳原 克紀	平成27年4月	医療現場における微生物	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
兼任	教授	堀井 健一	平成26年4月	文学と社会						
兼任	教授	松田 浩	平成26年4月	自然災害とインフラ長寿命化						
兼任	教授	山下 敬彦	平成26年4月	環境法(国際法)と環境問題への取組み 資源・エネルギー問題への取組み エネルギーマネジメント	兼任	教授	山下 敬彦	平成26年4月	国際環境法 環境法(国際法)と環境問題への取組み 資源・エネルギー問題への取組み エネルギーマネジメント	教育課程(科目内容)の見直しのため(27)
兼任	教授	池田 通	平成26年4月	健康と医療の安全・安心	兼任	教授	中山 守雄	平成27年4月	健康と医療の安全・安心	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	伊藤 公成	平成26年4月	健康と医療の安全・安心	担当教員の見直しのため(26)
					兼任	教授	尾野村 治	平成26年4月	疾病の回復を促進する薬 伝承薬から最先端医薬品までII	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	川上 茂	平成26年4月	疾病の回復を促進する薬	担当教員の見直しのため(26)

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	教授	福澤 勝彦	平成26年4月	情報と社会						
兼任	教授	山地 弘起	平成26年4月	対人世界の心理学	兼任	助教	川越 明日香	平成26年4月	人間関係の社会学 対人世界の心理学	教育課程(科目内容)の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26)
				身体・かかわり・言葉	兼任	教授	山地 弘起	平成26年4月	身体体験に学ぶ心理学 身体・かかわり・言葉	教育課程(科目内容)の見直しのため(27)
兼任	教授	田邊 秀二	平成26年4月	水環境の安全と安心 物質と化学反応						
兼任	教授	星野 由雅	平成26年4月	環境と社会	兼任	教授	星野 由雅	平成27年4月	環境と社会	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	藤本 登	平成26年4月	環境と社会	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	加藤 誠治	平成26年4月	国際援助と公的部門の役割						
兼任	教授	全 炳徳	平成26年4月	核兵器廃絶と教育						
兼任	教授	丹羽 量久	平成26年4月	情報の活用 情報と社会 情報化の役割と課題 ソフトウェアの利用技術 情報基礎						
兼任	教授	深尾 典男	平成26年4月	社会・メディア・政治 キャリア概論	兼任	教授	深尾 典男	平成26年4月	メディア・コミュニケーション 社会・メディア・政治 キャリア概論	教育課程(科目内容)の見直しのため(27)
兼任	教授	須齋 正幸	平成26年4月	国際的視点に立った経済	兼任	教授	山下 俊一	平成27年4月	科学技術と社会	教育課程(科目内容)の見直し及び 担当教員の見直しのため(27)
兼任	教授	鈴木 慶子	平成26年4月	日本語と表現	兼任	助教	川越 明日香	平成27年4月	集団内コミュニケーション	教育課程(科目内容)の見直し及び 担当教員の見直しのため(27)
兼任	教授	中川 泰	平成26年4月	芸術	兼任	教授	菅野 弘之	平成27年4月	芸術	担当教員の見直しのため(27)
兼任	教授	宮崎 泰司	平成26年4月	被ばく者と医療						
兼任	教授	井田 洋子	平成26年4月	日本国憲法	兼任	教授	吉田 省三	平成26年4月	日本国憲法	担当教員の見直しのため(27) 教育内容の充実のため(26)
兼任	教授	岩田 修永	平成26年4月	生命の化学(かみか'イロシ')	兼任	教授	岩田 修永	平成26年4月	ビギナーのための生物学	教育課程(科目内容)の見直しのため(27)
兼任	教授	嶋野 武志	平成26年4月	国際的視点に立った法と政治 資源・エネルギー問題への取組み						
兼任	教授	蔣 宇静	平成26年4月	自然災害とインフラ長寿命化						
					兼任	教授	小林 信之	平成27年4月	疾病と薬物治療	担当教員の見直しのため(27)
兼任	教授	塚元 和弘	平成26年4月	疾病と薬物治療	兼任	教授	中嶋 幹郎	平成26年4月	疾病と薬物治療	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	武藤 浩二	平成26年4月	疑似科学との付き合い方						
兼任	教授	菅原 潤	平成26年4月	環境問題の歴史から学ぶ 東西文化交流の歴史	兼任	教授	保坂 稔	平成27年4月	環境問題の歴史から学ぶ 東西文化交流の歴史	担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(27)
兼任	教授	高尾 雄二	平成26年4月	地球温暖化を考える						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	教授	西田 孝洋	平成26年4月	薬との賢い付き合い方	兼任	教授	西田 孝洋	平成27年4月	薬との賢い付き合い方	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	植田 弘師	平成26年4月	薬との賢い付き合い方	担当教員の見直しのため(26)
					兼任	教授	大沢 一貴	平成27年4月	健康と医療の安全・安心	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	西田 孝洋	平成26年4月	健康と医療の安全・安心	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	濱田 久之	平成26年4月	健康と医療の安全・安心	兼任	教授	松田 尚樹	平成27年4月	健康と医療の安全・安心	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	江藤 宏美	平成26年4月	健康と医療の安全・安心	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	山本 太郎	平成26年4月	感染症と文明						
兼任	教授	才本 明秀	平成26年4月	物理学	兼任	准教授	松田 良信	平成26年4月	物理学	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	武田 弘資	平成26年4月	生命の化学(かみかみイオン)	兼任	教授	武田 弘資	平成26年4月	ビギナーのための生物学	教育課程(科目内容)の見直しのため(27)
兼任	教授	田崎 修	平成26年4月	医療現場の安全と安心	兼任	教授	濱野 真二郎	平成26年4月	医療現場の安全と安心	担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	中島 正洋	平成26年4月	遺伝子と生命	兼任	教授	泉川 公一	平成27年4月	ヒトと微生物の関わり～もちつ、もたれつの関係性～	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
				被ばく者と医療	兼任	教授	中島 正洋	平成26年4月	被ばく者と医療	
兼任	教授	西田 教行	平成26年4月	エイズと性感染症						
兼任	教授	工藤 崇	平成26年4月	話題の先進医学						
兼任	教授	木村 正成	平成26年4月	環境・生活と化学						
兼任	教授	藤本 登	平成26年4月	資源・エネルギー問題への取り組み	兼任	教授	片山 朗	平成27年4月	リスク社会と社会科学	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	准教授	宍倉 学	平成26年4月	リスク社会と社会科学	担当教員の見直しのため(26)
兼任	教授	吉田 謙太郎	平成26年4月	生物多様性を考える						
兼任	教授	高村 昇	平成26年4月	細胞と放射線	兼任	講師	長谷川 寛雄	平成27年4月	医療現場における微生物	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
兼任	教授	李 桃生	平成26年4月	幹細胞と再生医療						
兼任	教授	橋爪 真弘	平成26年4月	医療現場の安全と安心	兼任	准教授	松本 武浩	平成26年4月	医療現場の安全と安心	担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26)
					兼任	教授	福島 邦夫	平成26年4月	環境と民俗	担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26)
					兼任	教授	杉村 乾	平成27年4月	生態系と社会	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	若菜 啓孝	平成27年4月	コミュニケーション基礎実践	教育内容の充実のため(27)
					兼任	教授	石部 邦昭	平成27年4月	特別活動論 生徒・進路指導論	教育内容の充実のため(27)
					兼任	教授	吉村 幸	平成27年4月	データの科学	教育課程の充実のため(27)
					兼任	教授	鈴木 達治郎	平成27年4月	核軍縮の法と政治	教育内容の充実のため(27)
					兼任	教授	福永 博俊	平成27年4月	暮らしと電気	教育内容の充実のため(27)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	准教授	松田 雅子	平成26年4月	東西文化交流の歴史					東西文化交流の歴史	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	新川 哲子	平成26年4月	医療現場の安全と安心	兼任	講師	林田 秀明	平成26年4月	医療現場の安全と安心	担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	杉山 和一	平成26年4月	都市環境を考える						
兼任	准教授	菊池 泰樹	平成26年4月	健康と医療の安全・安心	兼任	教授	西田 孝洋	平成26年4月	健康と医療の安全・安心	担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	林田 雅希	平成26年4月	健康科学						
兼任	准教授	勝田 順一	平成26年4月	破壊事故とヒューマンファクタ						
兼任	准教授	富塚 明	平成26年4月	地球温暖化を考える	兼任	准教授	富塚 明	平成26年4月	平成長崎塾 地球温暖化を考える 平和講座	教育内容の充実のため(27) 担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	中村 修	平成26年4月	地域の環境を考える						
兼任	准教授	松田 良信	平成26年4月	自然を記述するための基礎数学	兼任	准教授	下本 陽一	平成27年4月	意思決定の数理	教育課程(科目内容)の見直し及び 担当教員の見直しのため(27)
					兼任	准教授	松田 良信	平成26年4月	自然を記述するための基礎数学 物理科学	教育内容の充実のため(26)
兼任	准教授	森山 雅雄	平成26年4月	地球環境の科学						
兼任	准教授	大橋 絵理	平成26年4月	異文化コミュニケーション 上級外国語(フランス語) フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ	兼任	教授	大橋 絵理	平成26年4月	異文化コミュニケーション 上級外国語(フランス語) フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ	担当教員の昇任のため(26)
兼任	准教授	鈴木 啓司	平成26年4月	遺伝子と生命	兼任	助教	高園 貴弘	平成27年4月	ヒトと微生物の関わり～もちつ、もたれつの関係性～	教育課程(科目内容)の見直し及び 担当教員の見直しのため(27)
兼任	准教授	本間 季里	平成26年4月	免疫と病気						
兼任	准教授	小野 哲	平成26年4月	企業の仕組みと行動	兼任	准教授	宇都宮 謙	平成27年4月	企業の仕組みと行動	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	星野 光秀	平成26年4月	企業の仕組みと行動	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	田中 俊幸	平成26年4月	科学と技術の安全・安心						
兼任	准教授	藤村 誠	平成26年4月	暮らしと情報の数理	兼任	准教授	有川 康弘	平成27年4月	分子設計と合成化学	教育課程(科目内容)の見直し及び 担当教員の見直しのため(27)
					兼任	准教授	藤村 誠	平成26年4月	暮らしと情報の数理 暮らしの中の情報科学	教育内容の充実のため(26)
兼任	准教授	竹下 哲史	平成26年4月	環境基本法と環境基本計画 化学薬品等の取り扱い 廃棄物のマネージメント	兼任	准教授	竹下 哲史	平成26年4月	国内環境法Ⅰ 環境基本法と環境基本計画 化学薬品等の取り扱い 化学薬品等の取り扱い 廃棄物のマネージメント	教育課程(科目内容)の見直し及び 担当教員の見直しのため(27) 教育内容の充実のため(27) 担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	阿比留 教生	平成26年4月	免疫と病気						
兼任	准教授	中村 千秋	平成26年4月	コミュニケーションとICT	兼任	准教授	岡田 佳子	平成26年4月	コミュニケーション基礎実践 コミュニケーション基礎実践A+B	教育課程(科目内容)の見直しのため(27) 教育課程(科目内容)の見直しのため(26)
					兼任	助教	富山 明華	平成26年4月	コミュニケーション基礎実践 コミュニケーション基礎実践A+B	教育課程(科目内容)の見直しのため(27) 教育課程(科目内容)の見直しのため(26)
兼任	准教授	石原 淳	平成26年4月	伝承薬から最先端医薬品までⅡ	兼任	准教授	石原 淳	平成27年4月	伝承薬から最先端医薬品までⅡ	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	准教授	栗山 正巳	平成26年4月	伝承薬から最先端医薬品までⅡ	担当教員の見直しのため(26)

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	准教授	岡田 二郎	平成26年4月	コミュニケーションの生物学	兼任	教授	深尾 典男	平成27年4月	メディア・コミュニケーション基礎	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	岡田 二郎	平成26年4月	コミュニケーションの生物学	担当教員の昇任のため(26)
兼任	准教授	尾崎 恵一	平成26年4月	生命の化学(かみかみ付合)	兼任	准教授	尾崎 恵一	平成26年4月	ビギナーのための生物学	教育課程(科目内容)の見直しのため(27)
兼任	准教授	田中 邦彦	平成26年4月	細胞と放射線	兼任	助教	森永 芳智	平成27年4月	医療現場における微生物	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
兼任	准教授	森田 千尋	平成26年4月	自然災害とインフラ長寿命化						
兼任	准教授	和達 容子	平成26年4月	地球温暖化を考える						
兼任	准教授	井上 徹志	平成26年4月	海洋生物の遺伝子多様性	兼任	教授	井上 徹志	平成26年4月	海洋生物の遺伝子多様性	担当教員の昇任のため(26)
兼任	准教授	藤島 友之	平成26年4月	物理の考え方	兼任	教授	夢田 彰秀	平成26年4月	身の回りの中の物理化学	教育課程(科目内容)及び担当教員の見直しのため(26)
					兼任	助教	杉本 知史	平成26年4月		
兼任	准教授	真木 俊英	平成26年4月	化学薬品等の取り扱い 環境分析技術(advanced class)	兼任	准教授	真木 俊英	平成26年4月	化学薬品等の取り扱い <del>環境分析技術(advanced class)</del> ビギナーのための有機化学	履修希望者がいなかったため(27) 教育内容の充実のため(26)
兼任	准教授	劉 卿美	平成26年4月	上級外国語(韓国語) 韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ	兼任	教授	劉 卿美	平成26年4月	上級外国語(韓国語) 韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ 韓国語Ⅲ 韓国語Ⅳ	担当教員の昇任のため(26)
兼任	准教授	和田 実	平成26年4月	海洋生物の遺伝子多様性	兼任	教授	和田 実	平成26年4月	海洋生物の遺伝子多様性	担当教員の昇任のため(27)
兼任	准教授	近藤 新二	平成26年4月	疾病と薬物治療					疾病と薬物治療	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	城谷 圭朗	平成26年4月	生命の化学(かみかみ付合)	兼任	准教授	城谷 圭朗	平成26年4月	ビギナーのための生物学	教育課程(科目内容)の見直しのため(27)
兼任	准教授	山口 健一	平成26年4月	海洋生物の遺伝子多様性						
兼任	准教授	上繁 義史	平成26年4月	情報社会の安全と安心	兼任	准教授	上繁 義史	平成26年4月	情報社会の安全と安心 情報基礎	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	花島 力	平成26年4月	生命科学のための物理化学入門	兼任	准教授	花島 力	平成27年4月	ビギナーのための物理化学	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
					兼任	准教授	岸川 直哉	平成26年4月	生命科学のための物理化学入門	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	河本 和明	平成26年4月	地球温暖化を考える	兼任	教授	河本 和明	平成26年4月	地球温暖化を考える	担当教員の昇任のため(26)
兼任	准教授	谷口 弘一	平成26年4月	教育相談						
兼任	准教授	和田 光弘	平成26年4月	出島の科学	兼任	教授	川上 茂	平成27年4月	出島の科学	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	准教授	大山 要	平成26年4月	出島の科学	教育内容の充実のため(26)
兼任	准教授	神菌 健次	平成26年4月	社会制度と経済活動	兼任	准教授	神菌 健次	平成27年4月	社会制度と経済活動	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	准教授	式見 雅代	平成26年4月	社会制度と経済活動	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	菅 向志郎	平成26年4月	海洋生物の遺伝子多様性						
兼任	准教授	長島 雅裕	平成26年4月	身のまわりの科学 疑似科学とのつき合い方	兼任	准教授	大庭 伸也	平成27年4月	身のまわりの科学	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	准教授	福山 隆雄	平成26年4月	身のまわりの科学 疑似科学とのつき合い方	担当教員の見直しのため(26) 教育内容の充実のため(26)
兼任	准教授	正田 備也	平成26年4月	情報と社会						



設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	准教授	内野 成美	平成26年4月	教育相談						
兼任	准教授	古賀 掲維	平成26年4月	問題解決のアルゴリズム 情報化時代の仕事術	兼任	教授	野崎 剛一	平成26年4月	プログラミングの事始め 問題解決のアルゴリズム	教育課程(科目内容)の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26)
					兼任	准教授	古賀 掲維	平成26年4月	情報化時代の仕事術 モバイルウェブアプリケーション開発入門	教育課程の充実のため(26)
兼任	准教授	成田 真樹子	平成26年4月	国際社会と日本経済	兼任	准教授	成田 真樹子	平成27年4月	国際社会と日本経済	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	Basu Dipak Rag	平成26年4月	国際社会と日本経済	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	保坂 稔	平成26年4月	環境と社会運動	兼任	教授	保坂 稔	平成26年4月	環境と社会運動	担当教員の昇任のため(26)
兼任	准教授	山口 純哉	平成26年4月	経済政策と公共部門	兼任	准教授	島田 章	平成27年4月	経済政策と公共部門	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	准教授	笹川 篤史	平成26年4月	経済政策と公共部門	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	中垣内 真樹	平成26年4月	スポーツ演習 健康科学	兼任	准教授	中垣内 真樹	平成26年4月	スポーツ演習	
					兼任	准教授	山崎 浩則	平成26年4月	健康科学	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	山口 典之	平成26年4月	生物多様性を考える						
兼任	准教授	山田 博俊	平成26年4月	環境・生活と化学						
兼任	准教授	大倉 真人	平成26年4月	経済活動と社会	兼任	教授	村田 省三	平成27年4月	経済活動と社会	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	藤田 渉	平成26年4月	経済活動と社会	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	萩 朋男	平成26年4月	細胞と放射線	兼任	助教	宇野 直輝	平成27年4月	医療現場における微生物	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
兼任	准教授	柴田 裕一郎	平成26年4月	暮らしと情報の数理	兼任	教授	木村 正成	平成27年4月	分子設計と合成化学	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	小林 透	平成26年4月	暮らしと情報の数理	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	渡辺 貴史	平成26年4月	都市環境を考える	兼任	教授	渡辺 貴史	平成26年4月	都市環境を考える	担当教員の昇任のため(27)
兼任	准教授	田山 淳	平成26年4月	健康科学	兼任	講師	小川 さやか	平成27年4月	健康科学	担当教員の見直しのため(27)
兼任	准教授	小林 寛	平成26年4月	日本国憲法					日本国憲法	担当教員の見直しのため(27)
兼任	准教授	深見 聡	平成26年4月	地域の環境を考える 東西文化交流の歴史	兼任	准教授	深見 聡	平成26年4月	地域の環境を考える 東西文化交流の歴史 共同授業	担当教員の見直しのため(27) 教育課程の見直しのため(27) 教育課程の充実のため(26)
兼任	准教授	楠山 研	平成26年4月	教育行政・制度論	兼任	准教授	楠山 研	平成27年4月	教育行政・制度論	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	江頭 明文	平成26年4月	教育行政・制度論	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	麓 伸太郎	平成26年4月	薬との賢い付き合い方	兼任	准教授	麓 伸太郎	平成27年4月	薬との賢い付き合い方	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	助教	松永 隼人	平成26年4月	薬との賢い付き合い方	担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	齋藤 義紀	平成26年4月	ビギナーのための有機化学	兼任	准教授	齋藤 義紀	平成27年4月	自然の中の薬と毒	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
					兼任	准教授	山田 耕史	平成26年4月	ビギナーのための有機化学	教育内容の充実のため(26)
兼任	准教授	西田 治	平成26年4月	芸術・スポーツとコミュニケーション						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	准教授	小西 祐馬	平成26年4月	疑似科学とのつき合い方						
兼任	准教授	土橋 力也	平成26年4月	企業行動と戦略	兼任	教授	丸山 幸宏	平成27年4月	企業行動と戦略	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	教授	林 徹	平成26年4月	企業行動と戦略	担当教員の見直しのため(26)
					兼任	准教授	大庭 誠	平成26年4月	ピギナーのための有機化学	教育内容の充実のため(26)
					兼任	准教授	淵上 剛志	平成26年4月	出島の科学	教育内容の充実のため(26)
					兼任	准教授	山岸 賢一郎	平成26年4月	疑似科学とのつき合い方	教育内容の充実のため(26)
					兼任	准教授	池谷 和子	平成26年4月	日本国憲法	教育内容の充実のため(26)
					兼任	准教授	古本 裕美	平成26年4月	日本語上級IIa 日本語上級IIA 日本語中級II読解	教育課程(科目内容)の見直しのため(27) 履修希望者がいなかったため(27) 教育内容の充実のため(26)
					兼任	准教授	片山 健介	平成27年4月	都市環境を考える	教育内容の充実のため(27)
					兼任	准教授	佐藤 克也	平成27年4月	エイズと性感染症	教育内容の充実のため(27)
					兼任	准教授	新 竜一郎	平成27年4月	エイズと性感染症	教育内容の充実のため(27)
					兼任	准教授	北里 海雄	平成27年4月	疾病と薬物治療	教育内容の充実のため(27)
					兼任	准教授	藤井 秀道	平成27年4月	環境リスクと社会	教育内容の充実のため(27)
					兼任	准教授	堀江 哲也	平成27年4月	生態系と社会	教育内容の充実のため(27)
					兼任	准教授	太田 貴大	平成27年4月	環境問題の歴史から学ぶ	教育内容の充実のため(27)
					兼任	准教授	岡田 佳子	平成27年4月	人間関係の社会学	教育内容の充実のため(27)
					兼任	准教授	中島 ゆり	平成27年4月	人間関係の社会学	教育内容の充実のため(27)
兼任	講師	金子 高士	平成26年4月	健康と医療の安全・安心	兼任	准教授	木住野 達也	平成26年4月	健康と医療の安全・安心	担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26)
兼任	講師	土居 裕和	平成26年4月	コミュニケーションの生物学					コミュニケーションの生物学	担当教員の見直しのため(26)
					兼任	講師	黒滝 直弘	平成26年4月	平和講座	教育内容の充実のため(26)
兼任	助教	嶋田 敏生	平成26年4月	人体の構造と機能	兼任	准教授	新 竜一郎	平成27年4月	エイズについて考える	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
					兼任	講師	辻 幸臣	平成26年4月	人体の構造と機能	担当教員の見直しのため(26)
兼任	助教	田口 潤	平成26年4月	幹細胞と再生医療						
兼任	助教	光武 範史	平成26年4月	遺伝子と生命	兼任	講師	宮崎 泰可	平成27年4月	ヒトと微生物の関わり～もちつ、もたれつの関係性～	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
					兼任	准教授	光武 範史	平成26年4月	遺伝子と生命	担当教員の昇任のため(26)
兼任	助教	玉井 慎美	平成26年4月	健康科学					健康科学	担当教員の見直しのため(26)
兼任	助教	柳生 大輔	平成26年4月	情報通信とコンピュータネットワークのしくみ	兼任	助教	柳生 大輔	平成26年4月	情報通信とコンピュータネットワークのしくみ	
				情報基礎	兼任	准教授	上繁 義史	平成26年4月	情報基礎	担当教員の見直しのため(26)
兼任	助教	佐藤 美穂	平成26年4月	グローバルキャリアへの扉	兼任	助教	佐藤 美穂	平成26年4月	共生のグローバル人類学 グローバルキャリアへの扉	教育内容の充実のため(27)

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	助教	虎島 泰洋	平成26年4月	幹細胞と再生医療						
兼任	助教	久保 隆	平成26年4月	科学と技術の安全・安心 環境関連法(国内法)と環境コミュニケーション 化学薬品等の取り扱い 環境汚染物質のマネジメント 環境分析技術(advanced class)	兼任	助教	久保 隆	平成26年4月	科学と技術の安全・安心 国内環境法Ⅱ 環境関連法(国内法)と環境コミュニケーション 化学薬品等の取り扱い 環境汚染物質のマネジメント 環境分析技術(advanced class)	教育課程(科目内容)の見直しのため(27) 履修希望者がいなかったため(27)
兼任	助教	一瀬 邦弘	平成26年4月	免疫と病気	兼任	講師	一瀬 邦弘	平成26年4月	免疫と病気	担当教員の昇任のため(27)
兼任	助教	三浦 史郎	平成26年4月	遺伝子と生命	兼任	助教	田代 将人	平成27年4月	ヒトと微生物の関わり～もちつ、もたれつとの関係性～	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
兼任	助教	吉永 泰周	平成26年4月	健康科学					健康科学	担当教員の見直しのため(27)
兼任	助教	杉本 知史	平成26年4月	暮らしの中の物理科学	兼任	教授	樋口 剛	平成27年4月	暮らしと電気	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
兼任	助教	高橋 圭介	平成26年4月	伝承薬から最先端医薬品までⅡ	兼任	助教	杉本 知史	平成26年4月	暮らしの中の物理科学 身の回りの中の物理科学	担当教員の見直しのため(26)
兼任	助教	西谷 正太	平成26年4月	コミュニケーションの生物学					伝承薬から最先端医薬品までⅡ	担当教員の見直しのため(26)
兼任	助教	堀 裕輔	平成26年4月	幹細胞と再生医療					コミュニケーションの生物学	担当教員の見直しのため(27)
兼任	助教	稲嶺 達夫	平成26年4月	疾病と薬物治療					疾病と薬物治療	担当教員の見直しのため(26)
兼任	助教	奥田 阿子	平成26年4月	異文化コミュニケーション 英語コミュニケーションⅢ 総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ 総合英語Ⅲ Advanced English I Advanced English II						
					兼任	助教	西丸 達也	平成27年4月	伝承薬から最先端医薬品までⅡ	教育内容の充実のため(27)
					兼任	助教	宮元 敬天	平成27年4月	薬との賢い付き合い方	教育内容の充実のため(27)
					兼任	助教	松尾 洋介	平成27年4月	自然の中の薬と毒	教育内容の充実のため(27)
兼任	講師	高橋 和雄	平成26年4月	科学と技術の安全・安心 自然災害とインフラ長寿命化					科学と技術の安全・安心 自然災害とインフラ長寿命化	担当教員の見直しのため(26) 担当教員の見直しのため(26)
兼任	講師	米田 耕司	平成26年4月	芸術と文化					芸術と文化	担当教員の見直しのため(26)
兼任	講師	篠崎 正人	平成26年4月	平和講座						
兼任	講師	平野 伸人	平成26年4月	被ばくと社会						
兼任	講師	安部 俊二	平成26年4月	疑似科学とのつき合い方 平和講座						
兼任	講師	姫野 順一	平成26年4月	東西文化交流の歴史 平成長崎塾 長崎学						
兼任	講師	植木 とみ子	平成26年4月	日本国憲法 ジェンダーと法						
兼任	講師	金子 修司	平成26年4月	基礎英語						
兼任	講師	関口 達夫	平成26年4月	平和講座	兼任	講師	関口 達夫	平成26年4月	平和講座 被ばくと社会	担当教員の見直しのため(26)
兼任	講師	高橋 信雄	平成26年4月	被ばくと社会	兼任	講師	関口 達夫	平成26年4月	被ばくと社会	担当教員の見直しのため(26)
兼任	講師	田川 直行	平成26年4月	基礎物理						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	赤星 正純	平成26年4月	被ばく者と医療						
兼任	講師	田元 正明	平成26年4月	基礎数学						
兼任	講師	筒井 保之	平成26年4月	基礎化学						
兼任	講師	平倉 充	平成26年4月	基礎生物						
兼任	講師	江口 勇治	平成26年4月	私たちと法						
兼任	講師	阿南 重幸	平成26年4月	解放講座						
兼任	講師	山上 徹二郎	平成26年4月	文学・芸術と核兵器						
兼任	講師	高瀬 毅	平成26年4月	核兵器廃絶と教育						
兼任	講師	赤木 幹子	平成26年4月	文学・芸術と核兵器						
兼任	講師	古賀 正之	平成26年4月	ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ						
兼任	講師	関谷 融	平成26年4月	教育原理論	兼任	准教授	山岸 賢一郎	平成27年4月	教育原理	担当教員の見直しのため(27)
兼任	講師	布袋 厚	平成26年4月	平成長崎塾	兼任	助教	市川 智生	平成27年4月	平成長崎塾	担当教員の見直しのため(27)
兼任	講師	国武 雅子	平成26年4月	平和講座						
兼任	講師	大森 アユミ	平成26年4月	日本語と表現					日本語と表現	担当教員の見直しのため(27)
兼任	講師	西田 充	平成26年4月	核軍縮の法と政治						
兼任	講師	山口 剛史	平成26年4月	核兵器廃絶と教育						
兼任	講師	黒崎 輝	平成26年4月	核兵器とは何か					核兵器とは何か	担当教員の見直しのため(26)
兼任	講師	桐谷 多恵子	平成26年4月	核兵器廃絶と教育						
兼任	講師	奥野 正太郎	平成26年4月	被ばくと社会						
					兼任	講師	坂巻 正伸	平成26年4月	キャリア概論	教育内容の充実のため(26)
					兼任	講師	川崎 昌子	平成26年4月	キャリア概論	教育内容の充実のため(26)
					兼任	講師	山口 響	平成27年4月	メディアと平和	教育内容の充実のため(27)
					兼任	講師	普久原 均	平成27年4月	メディアと平和	教育内容の充実のため(27)
					兼任	講師	小倉 利丸	平成27年4月	メディアと平和	教育内容の充実のため(27)
					兼任	講師	菱川 裕之	平成27年4月	メディアと平和	教育内容の充実のため(27)

5 教員組織の状況

<多文化社会学部多文化社会学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	稲田 俊明	平成26年4月	現代言語理論 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究						
専任	教授	佐久間 正	平成26年4月	教養ゼミナール 日本の思想文化 日本を知る 人間観とコスモロジー 日本の中の世界、世界の中の日本 日本語からたどる文化 日本思想史 基礎演習 A 基礎演習 B 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	専任	教授	佐久間 正	平成26年4月	教養ゼミナール <del>日本の思想文化</del> 日本を知る 人間観とコスモロジー 日本の中の世界、世界の中の日本 日本語からたどる文化 日本思想史 基礎演習 A <del>基礎演習 B</del> 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため(26) 教育課程の見直しのため未開講(27)  担当教員の見直しのため(27)
専任	教授	門司 和彦	平成26年4月	グローバル人口学 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究						
専任	教授	源島 福己	平成26年4月	企業の国際展開とその課題 日本語上級 II S 日本語上級 II A 日本事情 グローバルキャリアへの扉 地域をこえるマネジメント アフリカ諸言語からたどる文化 キャリア形成論 自主企画インターンシップ	専任	教授	源島 福己	平成26年4月	企業の国際展開とグローバル人材育成 <del>企業の国際展開とその課題</del>  日本語上級 II a 日本語上級 II S  日本語上級 II b 日本語上級 II A  日本事情 グローバルキャリアへの扉 地域をこえるマネジメント アフリカ諸言語からたどる文化 キャリア形成論 自主企画インターンシップ	教育課程(科目内容)の見直しのため、平成27年1月AC教員審査済(27)  教育課程(科目内容)の見直しのため、平成27年7月AC教員審査予定(27) 教育課程(科目内容)の見直しのため、平成27年7月AC教員審査予定(27)
専任	教授	連 清吉	平成26年4月	中国語 I 中国語 II 中国語 III 中国語 IV 人間観とコスモロジー 日本の中の世界、世界の中の日本 中国語からたどる文化 中国語文献討論 I 中国語文献討論 II 中国語プレゼンテーション 中国思想史 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	専任	教授	連 清吉	平成26年4月	教養ゼミナール 中国語 I 中国語 II 中国語 III 中国語 IV 人間観とコスモロジー 日本の中の世界、世界の中の日本 中国語からたどる文化 中国語文献討論 I 中国語文献討論 II 中国語プレゼンテーション 中国思想史 基礎演習 A 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため、平成26年7月AC教員審査受審予定(26)  担当教員の見直しのため、平成27年7月AC教員審査受審予定(27)
専任	教授	楊 晩安	平成26年4月	中国語 I 中国語 II 中国語 III 中国語 IV 上級外国語(中国語) 中国語からたどる文化 中国語総合表現 I 中国語総合表現 II 中国語プレゼンテーション 対照言語学 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	廣瀬 訓	平成26年4月	国際社会と平和 文学・芸術と核兵器 核軍縮の法と政治 グローバルキャリアへの扉 多文化のなかのルール 地域をこえるマネジメント 紛争と平和 国際機構論 軍縮と平和 国際協力論 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	専任	准教授	近江 美保	平成26年4月	国際社会と平和	担当教員の見直しのため、平成26年7月AC教員審査受審予定(26)
					専任	教授	廣瀬 訓	平成26年4月	文学・芸術と核兵器 核軍縮の法と政治 グローバルキャリアへの扉 多文化のなかのルール 地域をこえるマネジメント 紛争と平和 国際機構論 軍縮と平和 国際協力論 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	
専任	教授	西原 俊明	平成26年4月	総合英語 I 総合英語 II 英語からたどる文化 英語の仕組みと意味 I 英語の仕組みと意味 II コーパス言語学 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究 教育実習(事前・事後指導を含む。) 教職実践演習						
専任	教授	王 維	平成26年4月	教養ゼミナール アジア理解への扉 文化は社会の鏡なのか 越境する文化 中国語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 異文化交流論 基礎演習 A 基礎演習 B 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	専任	教授	王 維	平成26年10月	教養ゼミナール アジア理解への扉 文化は社会の鏡なのか 越境する文化 中国語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 異文化交流論 基礎演習 A 基礎演習 B 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究  文化観光のマーケティング  社会文化観光論  共生するアジアの多文化社会	前任校での業務の都合により、就任が遅延。平成26年度の教養ゼミナール及びフィールドワーク入門は他教員が担当するため、授業の開講に支障はない。(26) 担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(27)  教育課程の見直しのため、廃止(27) 担当教員の見直しのため、平成26年7月AC教員審査受審予定(26) 教育課程の充実のため、平成27年1月AC教員審査済 教育課程の見直しのため未開講(27) 教育課程の充実のため、平成27年1月AC教員審査済(27)
専任	教授	葉柳 和則	平成26年4月	教養ゼミナール ドイツ語 I ドイツ語 II オランダ・ヨーロッパ理解への扉 文化は社会の鏡なのか 出来事と表象のあいだ ヨーロッパ諸言語からたどる文化 文化表象論 基礎演習 A 基礎演習 B 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	専任	教授	葉柳 和則	平成26年4月	教養ゼミナール ドイツ語 I ドイツ語 II オランダ・ヨーロッパ理解への扉 共生するアジアの多文化社会 文化は社会の鏡なのか 出来事と表象のあいだ ヨーロッパ諸言語からたどる文化 文化表象論 基礎演習 A 基礎演習 B 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため(27)  教育課程の充実のため、平成27年1月AC教員審査済(27)  担当教員の見直しのため(27)
専任	教授	首藤 明和	平成26年4月	教養ゼミナール アジア理解への扉 越境する文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 現代アジア社会論 基礎演習 A 基礎演習 B 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	専任	教授	首藤 明和	平成26年4月	教養ゼミナール 教養ゼミナール アジア理解への扉 共生するアジアの多文化社会 越境する文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 現代アジア社会論 基礎演習 A 基礎演習 B 専門演習 I-A 専門演習 I-B 専門演習 II-A 専門演習 II-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26)  教育課程の充実のため、平成27年1月AC教員審査済(27) 担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26) 担当教員の見直しのため(27)  担当教員の見直しのため(27)

設置時の計画				変更状況				備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	
専任	准教授	森川 裕二	平成26年4月	専任	准教授	森川 裕二	平成26年4月	<p>教養ゼミナール メディアと平和</p> <p>共生するアジアの多文化社会 グローバルキャリアへの扉 多文化社会のガバナンス 日本の中の世界、世界の中の日本 国際政治学 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究</p> <p>東子ジジの国際関係</p> <p>教育課程の充実のため、平成27年7月AC教員審査受審予定(27) 教育課程の充実のため、平成27年1月AC教員審査済(27)</p> <p>担当教員の見直しのため(27)</p> <p>教育課程の見直しのため未開講(27) 担当教員の見直しのため、平成26年7月AC教員審査受審予定(26)</p>
専任	准教授	近江 美保	平成26年4月	専任	准教授	近江 美保	平成26年4月	<p>教養ゼミナール グローバルキャリアへの扉 ジェンダーと人権 他者と生きる技法 国際人権論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究</p> <p>国際社会と平和</p> <p>担当教員の変更のため(26)</p> <p>担当教員の見直しのため(27)</p> <p>担当教員の見直しのため、平成26年7月AC教員審査受審予定(26)</p>
専任	准教授	正本 忍	平成26年4月	専任	准教授	正本 忍	平成26年4月	<p>教養ゼミナール オランダ・ヨーロッパ理解への扉 出来事と表象のあいだ ヨーロッパ言語からたどる文化 アーカイヴ実習 社会史 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究</p> <p>環境問題の歴史から学ぶ</p> <p>環境問題の歴史から学ぶ</p> <p>担当教員の見直しのため(27)</p> <p>担当教員の見直しのため(27)</p> <p>担当教員の見直しのため(27)</p> <p>環境問題の歴史から学ぶ 教育内容の充実のため(27)</p>
専任	准教授	野上 建紀	平成26年4月	専任	准教授	野上 建紀	平成26年4月	<p>教養ゼミナール 長崎学 長崎から出発するグローバル世界へ アジア理解への扉 越境する文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 アジア海域交流史 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究</p> <p>長崎学 長崎から出発するグローバル世界へ アジア理解への扉 共生するアジアの多文化社会 越境する文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 アジア海域交流史</p> <p>担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(27)</p> <p>教育課程の充実のため、平成27年1月AC教員審査済(27) 担当教員の見直しのため(26)</p> <p>担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(27)</p>
専任	准教授	増田 研	平成26年4月	専任	准教授	増田 研	平成26年4月	<p>教養ゼミナール 共生のグローバル人類学 アフリカ理解への扉 文化のなかのエコノミー 紛争と平和 文化は社会の鏡なのか 他者と生きる技法 アフリカ言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 海外フィールドワーク実習 現代アフリカ社会論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究</p> <p>環境と民俗</p> <p>環境と民俗</p> <p>担当教員の見直しのため(26)</p> <p>担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(27)</p> <p>担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(27)</p>
専任	准教授	増田 研	平成26年4月	兼任	教授	福島 邦夫	平成26年4月	<p>環境と民俗</p> <p>担当教員の見直しのため(26)</p>

設置時の計画				変更状況				備考	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月		
専任	准教授	才津 祐美子	平成26年4月	専任	准教授	才津 祐美子	平成26年4月	<p>教養ゼミナール 日本を知る 日本の中の世界、世界の中の日本 日本語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 文化資源論 地域文化論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究</p> <p>教養ゼミナール 教養ゼミナール 日本を知る 日本の中の世界、世界の中の日本 日本語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 文化資源論 地域文化論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究</p>	<p>担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26)</p> <p>担当教員の見直しのため(26) 担当教員の見直しのため(27)</p> <p>担当教員の見直しのため(27)</p>
専任	准教授	池田(志々目) 幸恵	平成26年4月	専任	准教授	池田(志々目) 幸恵	平成26年4月	<p>教養ゼミナール 日本の言語と文化 長崎から出発するグローバル世界へ 日本を知る 日本の中の世界、世界の中の日本 日本語からたどる文化 アーカイヴ実習 日本語学 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究</p> <p>教養ゼミナール 日本の言語と文化 長崎から出発するグローバル世界へ 日本を知る 日本の中の世界、世界の中の日本 日本語からたどる文化 アーカイヴ実習 日本語学 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究</p>	<p>担当教員の見直しのため(27)</p> <p>担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(27)</p>
専任	准教授	波佐間 逸博	平成26年4月	専任	准教授	波佐間 逸博	平成26年4月	<p>教養ゼミナール アフリカ理解への扉 紛争と平和 アフリカ諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 海外フィールドワーク実習 地域生態論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究</p> <p>教養ゼミナール 教養ゼミナール 共生のグローバル人類学 アフリカ理解への扉 紛争と平和 アフリカ諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 フィールドワーク基礎実習 海外フィールドワーク実習 地域生態論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究</p>	<p>担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26) 教育内容の充実のため、平成27年7月AC教員審査受審予定(27)</p> <p>担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26) 担当教員の見直しのため(27)</p> <p>担当教員の見直しのため(27)</p>
				兼任	准教授	岡田 佳子	平成27年4月	<p>人間関係の社会学 コミュニケーションの人類学</p> <p>教育課程(科目内容)の見直しのため及び担当教員の見直しのため(27) 教育課程(科目内容)の見直しのため、平成26年7月AC教員審査受審予定(26)</p>	
専任	准教授	木村 直樹	平成26年4月	専任	准教授	木村 直樹	平成26年4月	<p>教養ゼミナール 長崎から出発するグローバル世界へ オランダ-ヨーロッパ理解への扉 日本を知る 越境する文化 日本の中の世界、世界の中の日本 フィールドワーク入門 アーカイヴ実習 地域文化論 日蘭交流史 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究</p> <p>教養ゼミナール 教養ゼミナール 長崎から出発するグローバル世界へ オランダ-ヨーロッパ理解への扉 日本を知る 越境する文化 日本の中の世界、世界の中の日本 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 アーカイヴ実習 地域文化論 日蘭交流史 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究</p>	<p>担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26)</p> <p>担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26)</p> <p>担当教員の見直しのため(27)</p>
専任	准教授	賽漢卓娜	平成26年4月	専任	准教授	賽漢卓娜	平成26年4月	<p>教養ゼミナール アジア理解への扉 ジェンダーと人権 他者と生きる技法 アジア諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 異文化と家族 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究 家族社会学</p> <p>教養ゼミナール アジア理解への扉 共生するアジアの多文化社会 ジェンダーと人権 他者と生きる技法 アジア諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 異文化と家族 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究 家族社会学</p>	<p>担当教員の見直しのため(27)</p> <p>教育課程の充実のため、平成27年1月AC教員審査済(27)</p> <p>担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(27)</p> <p>教育課程の見直しのため未開講(27) 担当教員の見直しのため、平成26年7月AC教員審査受審予定(26)</p>



設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	准教授	Cutrone Pino	平成26年4月	教養ゼミナール 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語からたどる文化 英語発音法 Reading and WritingⅠ Reading and WritingⅡ Academic WritingⅠ Academic WritingⅡ Reading and DiscussionⅠ Reading and DiscussionⅡ Debate 異文化間コミュニケーション 基礎演習A 基礎演習B 専門演習Ⅰ-A 専門演習Ⅰ-B 専門演習Ⅱ-A 専門演習Ⅱ-B 卒業研究 特別研究	専任	准教授	Cutrone Pino	平成26年4月	教養ゼミナール 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語からたどる文化 英語発音法 Reading and WritingⅠ Reading and WritingⅡ Academic WritingⅠ Academic WritingⅡ Reading and DiscussionⅠ Reading and DiscussionⅡ Debate 異文化間コミュニケーション 基礎演習A 基礎演習B 専門演習Ⅰ-A 専門演習Ⅰ-B 専門演習Ⅱ-A 専門演習Ⅱ-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため(26)  担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(27)
専任	准教授	滝澤 克彦	平成26年4月	教養ゼミナール 人間観とコスモロジー アジア諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 宗教文化論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習Ⅰ-A 専門演習Ⅰ-B 専門演習Ⅱ-A 専門演習Ⅱ-B 卒業研究 特別研究	専任	准教授	滝澤 克彦	平成26年4月	教養ゼミナール 共生するアジアの多文化社会 人間観とコスモロジー アジア諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 宗教文化論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習Ⅰ-A 専門演習Ⅰ-B 専門演習Ⅱ-A 専門演習Ⅱ-B 卒業研究 特別研究 宗教学	教育課程の充実のため、平成27年1月AC教員審査済(27) 担当教員の見直しのため(26) 担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(27)  教育課程の見直しのため未開講(27) 教育課程の充実のため、平成26年7月AC教員審査受審予定(26)
専任	准教授	Compel Radimir	平成26年4月	教養ゼミナール 多文化社会のガバナンス アジア諸言語からたどる文化 ヨーロッパ諸言語からたどる文化 比較政治 基礎演習A 基礎演習B 専門演習Ⅰ-A 専門演習Ⅰ-B 専門演習Ⅱ-A 専門演習Ⅱ-B 卒業研究 特別研究	専任	准教授	Compel Radimir	平成26年4月	教養ゼミナール 共生するアジアの多文化社会 多文化社会のガバナンス アジア諸言語からたどる文化 ヨーロッパ諸言語からたどる文化 比較政治 基礎演習A 基礎演習B 専門演習Ⅰ-A 専門演習Ⅰ-B 専門演習Ⅱ-A 専門演習Ⅱ-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため(26) 教育課程の充実のため、平成27年1月AC教員審査済(27) 担当教員の見直しのため(27)
専任	准教授	Grajdan Maria Mihaela	平成26年4月	教養ゼミナール 文化は社会の鏡なのか 出来事と表象のあいだ 日本の世界、世界の中の日本 ヨーロッパ諸言語からたどる文化 フィールドワーク基礎実習 メディア文化論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習Ⅰ-A 専門演習Ⅰ-B 専門演習Ⅱ-A 専門演習Ⅱ-B 卒業研究 特別研究	専任	准教授	Grajdan Maria Mihaela	平成26年4月	教養ゼミナール 文化は社会の鏡なのか 出来事と表象のあいだ 日本の世界、世界の中の日本 ヨーロッパ諸言語からたどる文化 フィールドワーク基礎実習 メディア文化論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習Ⅰ-A 専門演習Ⅰ-B 専門演習Ⅱ-A 専門演習Ⅱ-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため(26) 担当教員の見直しのため(27)
専任	准教授	鈴木 英明	平成26年4月	教養ゼミナール アフリカ理解への扉 文化のなかのエコノミー 越境する文化 アフリカ諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 アーカイヴ実習 海外フィールドワーク実習 グローバル文化交流史 基礎演習A 基礎演習B 専門演習Ⅰ-A 専門演習Ⅰ-B 専門演習Ⅱ-A 専門演習Ⅱ-B 卒業研究 特別研究	専任	准教授	鈴木 英明	平成26年4月	教養ゼミナール 教養ゼミナール アフリカ理解への扉 文化のなかのエコノミー 越境する文化 アフリカ諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 アーカイヴ実習 海外フィールドワーク実習 グローバル文化交流史 基礎演習A 基礎演習B 専門演習Ⅰ-A 専門演習Ⅰ-B 専門演習Ⅱ-A 専門演習Ⅱ-B 卒業研究 特別研究	担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26)  担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(27)  担当教員の見直しのため(27)

設置時の計画				変更状況				備考	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月		
専任	准教授	見原(吉野) 礼子	平成26年4月	専任	准教授	見原(吉野) 礼子	平成26年4月	<p>教養ゼミナール オランダ・ヨーロッパ理解への扉 グローバルキャリアへの扉 他者と生きる技法 ヨーロッパ諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 異文化理解教育 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究</p> <p>教養ゼミナール オランダ・ヨーロッパ理解への扉 グローバルキャリアへの扉 他者と生きる技法 ヨーロッパ諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 異文化理解教育 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究</p>	<p>担当教員の見直しのため(27)</p> <p>担当教員の見直しのため(27)</p>
専任	准教授	小松 悟	平成26年4月	専任	准教授	小松 悟	平成26年4月	<p>教養ゼミナール 文化のなかのエコノミー 国際開発論 国際協力論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究</p> <p>教養ゼミナール 文化のなかのエコノミー 国際開発論 国際協力論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究</p>	<p>教育課程の充実のため、平成27年1月AC教員審査済(27)</p>
専任	助教	南 誠(梁 雪江)	平成26年4月	専任	助教	南 誠(梁 雪江)	平成26年4月	<p>教養ゼミナール 社会学 アジア理解への扉 越境する文化 他者と生きる技法 アジア諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 トランスナショナルリティ論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究</p> <p>教養ゼミナール 社会学 共生するアジアの多文化社会 アジア理解への扉 越境する文化 他者と生きる技法 アジア諸言語からたどる文化 フィールドワーク入門 フィールドワーク基礎実習 インタビュー調査基礎実習 トランスナショナルリティ論 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究</p>	<p>担当教員の見直しのため(26)</p> <p>教育課程の充実のため、平成27年1月AC教員審査済(27)</p> <p>担当教員の見直しのため(26)</p> <p>担当教員の見直しのため(27)</p> <p>担当教員の見直しのため(27)</p> <p>担当教員の見直しのため(27)</p>
専任	助教	石司 真由美	平成26年4月	専任	助教	石司 真由美	平成26年4月	<p>教養ゼミナール 長崎から出発するグローバル世界へ 紛争と平和 軍縮と平和 国際法 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究</p> <p>教養ゼミナール 核軍縮の法と政治 長崎から出発するグローバル世界へ 紛争と平和 軍縮と平和 国際法 基礎演習A 基礎演習B 専門演習I-A 専門演習I-B 専門演習II-A 専門演習II-B 卒業研究 特別研究</p>	<p>担当教員の見直しのため(26)</p> <p>教育内容の充実のため、平成27年1月AC教員審査済(27)</p> <p>担当教員の見直しのため(27)</p>
兼任	教授	Beukers Harmen	平成27年4月	兼任	教授	Beukers Harmen	平成27年4月	<p>オランダ文化論 オランダ現代社会論</p> <p>オランダ文化論 オランダ現代社会論</p>	<p>担当教員の見直しのため(27)</p>
兼任	教授	Boot Jan Willem	平成27年10月	兼任	教授	Boot Jan Willem	平成27年10月	<p>オランダ現代社会論</p>	<p>担当教員の見直しのため(27)</p>
兼任	教授	Umali Celia Lopez	平成26年4月					<p>国際経営</p>	
兼任	教授	小笠原 真司	平成26年4月	兼任	教授	小笠原 真司	平成26年4月	<p>英語コミュニケーションⅢ 総合英語Ⅲ Advanced English I Advanced English II 英語の仕組みと意味 I 英語の仕組みと意味 II 応用言語学 英語科教育法 I 教育実習(事前・事後指導を含む。) 教職実践演習</p> <p>英語コミュニケーションⅢ 総合英語Ⅲ Advanced English I Advanced English II 英語の仕組みと意味 I 英語の仕組みと意味 II 応用言語学 英語科教育法 I 教育実習(事前・事後指導を含む。) 教職実践演習</p>	<p>担当教員の見直しのため(26)</p> <p>教育課程の充実のため(26)</p> <p>担当教員の見直しのため(27)</p> <p>担当教員の見直しのため(27)</p> <p>担当教員の見直しのため(27)</p>
兼任	教授	松山 章子	平成26年4月	兼任	教授	松山 章子	平成26年4月	<p>途上国支援と国際保健 国際協力論</p> <p>途上国支援と国際保健 国際協力論</p>	<p>教育課程(科目内容)の見直しのため(27)</p>

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月			
兼任	教授	岡田 裕正	平成26年4月	経営情報と会計情報 地域をこえるマネジメント	兼任	准教授	庵谷 治男	平成27年4月	経営情報と会計情報	担当教員の見直しのため(27)
					兼任	准教授	津留崎 和義	平成26年4月	経営情報と会計情報	担当教員の見直しのため(26)
					兼任	教授	岡田 裕正	平成26年4月	地域をこえるマネジメント	
兼任	教授	廣江 顕	平成26年4月	英語コミュニケーションⅢ 総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ 総合英語Ⅲ Advanced English I Advanced English II English for Specific Purposes (A) 英語の仕組みと意味Ⅰ 英語の仕組みと意味Ⅱ 英語科教育法Ⅱ 教育実習(事前・事後指導を含む。) 教職実践演習	兼任	教授	廣江 顕	平成26年4月	英語コミュニケーションⅢ 総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ 総合英語Ⅲ Advanced English I Advanced English II English for Specific Purposes (A) 英語の仕組みと意味Ⅰ 英語の仕組みと意味Ⅱ 英語科教育法Ⅱ 教育実習(事前・事後指導を含む。) 教職実践演習	担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(26)
				English for Specific Purposes (B)	兼任	助教	CONNOR SUZY	平成27年4月	English for Specific Purposes (B)	担当教員の見直しのため(27)
兼任	准教授	池田 俊也	平成26年4月	英米文学概論						
兼任	准教授	永井 智香子	平成26年4月	日本語上級ⅡA 日本語指導法	兼任	准教授	永井 智香子	平成26年4月	日本語上級Ⅱb 日本語上級ⅡA 日本語指導法 日本語上級ⅡS 異文化接触とコミュニケーション	教育課程(科目内容)の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(27)
				日本語上級ⅡS	兼任	准教授	古本 裕美	平成27年4月	日本語上級Ⅱa	教育課程(科目内容)の見直し及び担当教員の見直しのため(27)
				異文化接触とコミュニケーション	兼任	准教授	松本 久美子	平成27年4月	異文化接触とコミュニケーション	担当教員の見直しのため(27)
兼任	准教授	松本 久美子	平成26年4月	日本語上級ⅠS 日本語教育学概論	兼任	准教授	松本 久美子	平成26年4月	日本語上級Ⅰ 日本語上級ⅠS 日本語教育学概論	教育課程(科目内容)の見直しのため(27)
							平成27年4月	異文化接触とコミュニケーション	担当教員の見直しのため(27)	
兼任	准教授	松村 真樹	平成26年4月	世界人口の動向と国際開発 フィールドワーク入門 サーベイ基礎実習						
兼任	准教授	William Sherwood Collins	平成26年4月	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語発音法 Reading and Writing I Reading and Writing II Academic Writing I Academic Writing II Reading and Discussion I Reading and Discussion II Debate						
兼任	准教授	夢田 美有紀	平成26年4月	日本語中級Ⅱ読解 日本語上級ⅡS 日本語教育実習	兼任	准教授	夢田 美有紀	平成26年4月	日本語上級Ⅱa 日本語上級ⅡS 日本語教育実習	教育課程(科目内容)の見直しのため(27)
					兼任	准教授	古本 裕美	平成26年4月	日本語中級Ⅱ読解 日本語中級Ⅱ読解	履修希望者がいなかったため(27) 担当教員の見直しのため(26)
兼任	准教授	中村 桂子	平成26年4月	核兵器とは何か 市民運動・NGOと核兵器廃絶 紛争と平和 軍縮と平和						
兼任	助教	Beh Siewkee	平成26年4月	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語発音法 Reading and Writing I Reading and Writing II Academic Writing I Academic Writing II Reading and Discussion I Reading and Discussion II Debate	兼任	助教	Beh Siewkee	平成26年4月	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語発音法 Reading and Writing I Reading and Writing II Academic Writing I Academic Writing II Reading and Discussion I Reading and Discussion II Debate	担当教員の見直しのため(26) 担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(27) 担当教員の見直しのため(27)
兼任	助教	山下 龍	平成26年4月	英語で学ぶオランダと西欧の文化 オランダの言語 オランダの文化 オランダ-ヨーロッパ理解への扉 オランダ語Ⅰ オランダ語Ⅱ オランダ語Ⅲ 日蘭比較文化						
兼任	助教	隈上 麻衣	平成26年4月	第二言語習得論						
兼任	講師	古峨 和之	平成26年4月	教職実践演習						

設置時の計画				変更状況					備考	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月		担当授業科目名
兼任	講師	東條 正	平成26年4月	長崎から出発するグローバル世界へ日本の中の世界, 世界の中の日本						
兼任	講師	西原 和久	平成28年4月	グローバル社会学						
兼任	講師	森岡 直人	平成26年4月	教職論						通常開講(27) 教職課程認定申請を取り下げたことに伴う未開講(26)
兼任	講師	井石 哲也	平成26年4月	イギリス小説論						
兼任	講師	CHOWDHURY Mahbubul Alam	平成28年4月	アジア経済論						
兼任	講師	藤吉 圭二	平成27年4月	映像・デジタルアーカイブ実習						
兼任	講師	山内 乾史	平成26年4月	教育の方法と技術						
兼任	講師	西原 真弓	平成26年4月	英語音声のしくみと働き						
兼任	講師	七井 誠一郎	平成28年4月	多文化マーケティング論						
兼任	講師	松岡 雄太	平成26年4月	アジア諸言語からたどる文化						
兼任	講師	四條 知恵	平成28年4月	記憶文化論						

- (注) ・ 設置計画書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。  
 なお、当該設置に係る研究科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇研究科 〇〇専攻(〇〇課程)〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。  
 ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。  
 ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。  
 ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成27年5月1日現在の満年齢を記入してください。  
 ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。  
 ・ **意見伺いで設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**  
 ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。  
 なお、設置審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度( )書き等のみを記入してください。  
 ・ **「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。**

(2) 専任教員数

設置時の計画					変更状況					年齢構成		年齢構成(前年度の状況)	
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数
11	17	0	2	30	11	17	0	2	30	65	2	65	1
( 10 )	( 17 )	( 0 )	( 2 )	( 29 )	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	歳	名	歳	名

- (注) ・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成27年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
- ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年年齢および、平成27年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。
  - ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
  - ・「年齢構成(前年度の状況)」については、報告書提出の前年度の状況を記載してください。今年度初めて報告書を提出する場合は記入不要ですので、「-」を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	該当無し		
2			
3			

- (注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任（就任辞退を含む）等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当無し
------

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。
- ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (26年4月)	<p>法律のアプローチを謳っていることを踏まえれば、例えば、国際社会における家族関係や取引関係などにおける法律的問題に対応できる能力を身につけられるよう、法律関係科目の教育内容の充実を図ることが望ましい。</p> <p>コーチングフェローの役割や業務内容を学内規則等で明示するとともに、事前研修を含めた資質向上を図るための取組を行うことが望ましい。</p> <p>「社会動態コース」の名称については、専門性の高い表現であるため、例えば「現代社会コース」などへの見直しも検討しつつ、受験生等に対して、コースの教育内容が適切に理解できるよう丁寧に周知することが望ましい。</p>	<p>法律関係科目の教育内容について、充実を図るため検討を開始した。(26)</p> <p>法律関係科目の教育内容について、講義中に補足説明を十分に行う等、授業科目の概要を変更しない範囲で教育内容の充実を図っている。(27)</p> <p>コーチングフェローの役割や業務内容について、「多文化社会学部に置く戦略職員に関する内規」に明示するとともに、平成26年1月に多文化社会学部教員等FDを開催し、採用前に研修を行う等、資質向上の取組を行っている。(26)</p> <p>TOEFL及びIELTSについて、外部講師を招き、同試験の受験指導についての研修を行い、コーチングフェローに受講させる等、資質向上の取組を行った。(27)</p> <p>多文化社会学部のホームページでコースについての説明を行うとともに、高校生や保護者を対象とした説明会等において、「社会動態コース」の名称や教育内容について丁寧に説明を行った。(26)</p> <p>上記に加え、多文化社会学部のパンフレットを作成し、「社会動態コース」の名称及び教育内容について丁寧に説明を行った。(27)</p>	
設置計画履行状況 調 査 時 (26年5月)	該当無し		
設置計画履行状況 調 査 時 (27年5月)			

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を( )書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。

## 7 その他全般的事項

### <多文化社会学部多文化社会学科>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>5 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>(1) 教育課程編成の基本的な考え方            授業科目の体系性を可視化し、海外の大学との単位互換を円滑に行うためにナンバリングシステムを全面的に導入し、授業科目の系統性や学修段階を明示し、学生が授業科目のレベルや専門性を十分理解した上で授業科目を履修することを可能にする。本学では、<u>全学的なナンバリングシステムの導入を企図しているが、本学部はそれに向け先導的役割を果たす。</u></p> <p>(3) 教育課程及び科目区分の編成            (ウ) 全学モジュール科目【12単位】            ② 全学モジュールⅡ科目【3科目6単位】            選択したテーマに全学モジュールⅡとして開設されている5～6科目のうちから、3科目(計6単位)を2年次前期あるいは後期に履修する。</p> <p>7 教育方法、履修指導方法及び卒業要件</p> <p>(1) Transition Programによる準秋入学制            Transition Programを導入し、1年次の前期を高校までの学びからグローバル化時代の大学における学びへと移行するための集中学習の期間とすることによって、準秋入学を実現する。            このプログラムでは、新入学生は、英語と大学入門科目のみを集中的に学習することにより、英語で実施される高等教育レベルの授業に参加し得る語学力を身に付けるとともに、自らのキャリアパスを構想し、大学での学びに必要なく自ら問いを立て、自らそれに答える&gt;学びの姿勢とスキルを体得する。            (中略)  <u>ただし、入学時にTOEFL PBT500点(iBT61点)以上、TOEIC650点以上又は英検準1級以上に達している学生は、英語で実施される科目を受講しうる力と大学での学びのための基本的知識を有していると見なし、1年次前期は大学での講義の受講に代えて、国際的なボランティア、インターンシップ、フィールドワークに参加し、英語力の実践的ブラッシュアップを図るとともに、グローバル化する世界の現場を直接経験し、それを大学での学びへと展開させる。</u></p> <p>(8) CAP制            本学では、学習すべき授業科目を精選することで十分な学習時間を確保し、授業内容を深く身に付けさせるためにCAP制、すなわち各学生が1学年又は1学期に履修登録できる総単位数の上限設定を導入している。本学部では、学生が履修科目として登録することのできる単位数の上限は、年間48単位としている。ただし、学生が年間40単位以上登録した上で修得し、かつ、<u>グレード・ポイント・アベレージ(GPA)が4.0以上である場合には、次年度において、上記の上限を超えて、当該年次を標準履修年次とする科目を履修することを認める。</u></p>	<p>平成27年度から全学的にナンバリング・システムを導入したことに伴いコード体系を変更した(別紙参照)。</p> <p>全学モジュールの見直しに伴い、カテゴリー(多様性と共生、科学/技術の恩恵と限界、変容する環境とリテラシー)を新たに設け、カテゴリー毎に複数のテーマを配置したことにより、全学モジュールⅡの履修方法を変更した。</p> <p>② 全学モジュールⅡ科目【3科目6単位】            全学モジュールⅠで選択したテーマと同一のカテゴリーの中からテーマを選択し、3科目(計6単位)を2年次前期及び後期に履修する。</p> <p>教育効果向上のため、TOEICのスコアを650点以上から730点以上に変更した。</p> <p>GPAの計算式を5点満点から4点満点に見直したため、3.2以上に変更した。</p>



<p>(9) 進級要件</p> <p>ア 2年次における履修制限</p> <p>(7) 1年次終了時点でTOEFL PBT500点 (iBT61点) 以上に達していない場合は、英語モジュール以外の英語で開講される授業科目 (一部英語で開講される科目を含む) の履修を認めない。</p> <p>イ 3年次進級の要件</p> <p>(7) 100番台科目を30単位以上修得していること。</p> <p>(4) 200番台科目を30単位以上修得していること。</p> <p>9 入学者選抜の概要</p> <p>(2) 選抜方法</p> <p>ア 一般入試 (前期日程)</p> <p>センター試験と個別学力試験 (外国語 (英語) 及び批判的・論理的思考力テスト) を課す。 センター試験については、国語、外国語と地歴及び公民からの1科目、数学及び理科からの1科目の計4教科4科目を課す。英語は、筆記試験と英語リスニングの合計250点を200点に圧縮換算する。 なお、センター試験の外国語については、次のように取り扱うものとする。</p> <p>① TOEFL PBT500点 (iBT61点) 以上、TOEIC650点以上又は英検準1級以上の者は、センター試験の外国語の得点を満点として採点する。したがって、該当者は②の要件から外れる。</p> <p>② 上記①以外のもので、センター試験の外国語の得点率が80%未満の者は、選考の対象としない。</p> <p>イ 一般入試 (後期日程)</p> <p>センター試験と個別学力試験 (小論文及び面接) を課す。 センター試験については、国語、外国語と地歴及び公民からの1科目の計3教科3科目を課す。英語は、筆記試験と英語リスニングの合計250点を200点に圧縮換算する。 なお、センター試験の外国語については、次のように取り扱うものとする。</p> <p>① TOEFL PBT500点 (iBT61点) 以上、TOEIC650点以上又は英検準1級以上の者は、センター試験の外国語の得点を満点として採点する。したがって、該当者は②の要件から外れる。</p> <p>② 上記①以外のもので、センター試験の外国語の得点率が85%未満の者は、選考の対象としない。</p> <p>ウ A O入試</p> <p>出願資格は、TOEFL PBT500点 (iBT61点) 以上、TOEIC650点以上又は英検準1級以上とする。</p> <p>第2次選考では日本語及び英語による面接を課す。</p>	<p>TOEFL PBT (iBT) に加え、TOEFL ITPにより英語力の伸長度を測定することになったため、TOEFL ITP500点以上を追加し、さらに、イギリス等への中期・長期留学を見据えIELTS5.5以上を追加した。</p> <p>全学的なナンバリングシステムの導入に伴い、要件を変更した。</p> <p>(7) 標準履修年次が1年 (ナンバリングシステムの水準コードが1) の授業科目を30単位以上修得していること。</p> <p>(4) 標準履修年次が2年 (ナンバリングシステムの水準コードが2) の授業科目を30単位以上修得していること。</p> <p>高校での英語能力検定としてIELTS及びGTECの導入実績があることを踏まえ、IELTS5.5以上、GTEC for STUDENTS700点以上又はGTEC CBT1040点以上のスコアを追加した。</p> <p>センター試験の外国語の得点率が80%以上の者を第1段階選抜の合格者とする。</p> <p>高校での英語能力検定としてIELTS及びGTECの導入実績があることを踏まえ、IELTS5.5以上、GTEC for STUDENTS700点以上又はGTEC CBT1040点以上のスコアを追加した。</p> <p>センター試験の外国語の得点率が85%以上の者を第1段階選抜の合格者とする。</p> <p>入学後の教育効果を考慮し、出願資格のTOEICのスコアを730点以上に変更し、さらに、上記アと同様の理由により、出願資格にIELTS5.5以上、GTEC for STUDENTS700点以上又はGTEC CBT1040点以上のスコアを追加した。</p> <p>アドミッション・ポリシーに掲げる論理的思考力・洞察力 (観察力) を検査するため、面接に加え、筆記試験を追加した。</p>
--	--

<p>エ 帰国子女入試 出願資格は、TOEFL PBT537点 (iBT75点) 以上、TOEIC750点以上又は英検準 1 級以上とする。</p> <p>オ 外国人留学生入試 出願資格は、TOEFL PBT500点 (iBT61点) 以上又は TOEIC650点以上で、日本留学試験の指定の科目を受験していること。</p> <p>10 資格取得 【英語教員免許】 高等学校教諭普通免許状 (英語) 取得可能 (共生文化コースに所属し、教職関連科目の履修が必要) (申請中)</p> <p>11 海外留学等の具体的計画 (1) 海外留学の計画 ア 海外留学の目的 中期・長期留学の参加の条件として英語力及び学業成績に関する一定の要件を満たすことを課しており、具体的には、留学前の修得単位数及び成績については80単位以上 (3年次後期から留学する場合) かつ、GPA3.5以上、英語力についてはTOEFL PBT 550点 (iBT79点) 以上の取得を必須とする。</p>	<p>他の入試と同様に、英語検定試験に関する出願資格にIELTS6.0以上のスコアを追加した。</p> <p>他の入試と同様に、英語検定試験に関する出願資格にIELTS5.5以上のスコアを追加した。</p> <p>平成27年度入学者から、共生文化コースに所属し、教職関連科目を履修した学生に限り、高等学校教諭一種免許状 (英語) の取得が可能となった。</p> <p>中期・長期留学の参加条件を見直し、次のとおり出願資格を設けた。 (出願資格) 留学を希望する派遣先大学が定める出願時期において、次の①～⑥の条件をすべて満たす者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 長崎大学多文化社会学部2年次以上に在籍していること。</li> <li>② 原則として、本学が実施する海外短期留学語学研修プログラムを修了していること。</li> <li>③ 「別表 中長期留学出願に必要な修得単位数」に定める修得単位数を満たしていること。</li> <li>④ GPAが2.8以上であること。</li> <li>⑤ 本学部が定める以下の英語力要件のいずれかを満たしていること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ TOEFL PBT (ITP) 550点以上</li> <li>・ TOEFL iBT 79点以上</li> <li>・ IELTS 6.0以上</li> </ul> </li> <li>⑥ 希望する派遣先大学が定める語学及び学業成績要件を満たすこと。</li> </ol> <p>別表 中長期留学出願に必要な修得単位数</p> <table border="1" data-bbox="810 1451 1343 1917"> <thead> <tr> <th>留学開始時期</th> <th>必須修得単位数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2年次後期</td> <td>教養教育科目と専門教育科目を合わせて40単位以上 (単位認定された科目を含む。) 修得していること</td> <td>2年次前期の成績が確定していない場合は、以下の計算式により算出する。 1年次後期までに修得した単位数 + (1年次後期までの修得単位数 ÷ 1年次後期までの履修登録単位数) × 2年次前期の履修登録単位数</td> </tr> <tr> <td>3年次前期</td> <td>教養教育科目と専門教育科目を合わせて60単位以上 (単位認定された科目を含む。) 修得していること</td> <td>2年次後期の成績が確定していない場合は、以下の計算式により算出する。 2年次前期までに修得した単位数 + (2年次前期までの修得単位数 ÷ 2年次前期までの履修登録単位数) × 2年次後期の履修登録単位数</td> </tr> <tr> <td>3年次後期</td> <td>教養教育科目と専門教育科目を合わせて80単位以上 (単位認定された科目を含む。) 修得していること</td> <td>3年次前期の成績が確定していない場合は、以下の計算式により算出する。 2年次後期までに修得した単位数 + (2年次後期までの修得単位数 ÷ 2年次後期までの履修登録単位数) × 3年次前期の履修登録単位数</td> </tr> <tr> <td>4年次前期</td> <td>教養教育科目と専門教育科目を合わせて100単位以上 (単位認定された科目を含む。) 修得していること</td> <td>3年次後期の成績が確定していない場合は、以下の計算式により算出する。 3年次前期までに修得した単位数 + (3年次前期までの修得単位数 ÷ 3年次前期までの履修登録単位数) × 3年次後期の履修登録単位数</td> </tr> </tbody> </table>	留学開始時期	必須修得単位数	備考	2年次後期	教養教育科目と専門教育科目を合わせて40単位以上 (単位認定された科目を含む。) 修得していること	2年次前期の成績が確定していない場合は、以下の計算式により算出する。 1年次後期までに修得した単位数 + (1年次後期までの修得単位数 ÷ 1年次後期までの履修登録単位数) × 2年次前期の履修登録単位数	3年次前期	教養教育科目と専門教育科目を合わせて60単位以上 (単位認定された科目を含む。) 修得していること	2年次後期の成績が確定していない場合は、以下の計算式により算出する。 2年次前期までに修得した単位数 + (2年次前期までの修得単位数 ÷ 2年次前期までの履修登録単位数) × 2年次後期の履修登録単位数	3年次後期	教養教育科目と専門教育科目を合わせて80単位以上 (単位認定された科目を含む。) 修得していること	3年次前期の成績が確定していない場合は、以下の計算式により算出する。 2年次後期までに修得した単位数 + (2年次後期までの修得単位数 ÷ 2年次後期までの履修登録単位数) × 3年次前期の履修登録単位数	4年次前期	教養教育科目と専門教育科目を合わせて100単位以上 (単位認定された科目を含む。) 修得していること	3年次後期の成績が確定していない場合は、以下の計算式により算出する。 3年次前期までに修得した単位数 + (3年次前期までの修得単位数 ÷ 3年次前期までの履修登録単位数) × 3年次後期の履修登録単位数
留学開始時期	必須修得単位数	備考														
2年次後期	教養教育科目と専門教育科目を合わせて40単位以上 (単位認定された科目を含む。) 修得していること	2年次前期の成績が確定していない場合は、以下の計算式により算出する。 1年次後期までに修得した単位数 + (1年次後期までの修得単位数 ÷ 1年次後期までの履修登録単位数) × 2年次前期の履修登録単位数														
3年次前期	教養教育科目と専門教育科目を合わせて60単位以上 (単位認定された科目を含む。) 修得していること	2年次後期の成績が確定していない場合は、以下の計算式により算出する。 2年次前期までに修得した単位数 + (2年次前期までの修得単位数 ÷ 2年次前期までの履修登録単位数) × 2年次後期の履修登録単位数														
3年次後期	教養教育科目と専門教育科目を合わせて80単位以上 (単位認定された科目を含む。) 修得していること	3年次前期の成績が確定していない場合は、以下の計算式により算出する。 2年次後期までに修得した単位数 + (2年次後期までの修得単位数 ÷ 2年次後期までの履修登録単位数) × 3年次前期の履修登録単位数														
4年次前期	教養教育科目と専門教育科目を合わせて100単位以上 (単位認定された科目を含む。) 修得していること	3年次後期の成績が確定していない場合は、以下の計算式により算出する。 3年次前期までに修得した単位数 + (3年次前期までの修得単位数 ÷ 3年次前期までの履修登録単位数) × 3年次後期の履修登録単位数														

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの (未実施を含む。) 及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)
  - ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

## (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

### ① 実施体制

#### a 委員会の設置状況

##### 【全学】

評価・FD教育改善専門部会（規程は別紙のとおり）

##### 【学部】

教学に関する事項：学務委員会

研究に関する事項：総務委員会

ハラスメントに関する事項：ハラスメント防止委員会

その他必要に応じて該当する委員会で審議する。

#### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

(1) 評価・FD教育改善専門部会 平成26年4月14日、5月12日、6月9日、7月14日、9月8日、10月6日、11月10日、12月8日、平成27年2月9日、平成27年3月9日（委員21名）

(2) 学務委員会 平成26年4月15日、4月30日、5月14日、5月28日、6月4日、6月18日、7月2日、7月16日、7月30日、8月21日、9月16日、9月24日、10月1日、10月8日、10月22日、11月5日、11月19日、12月3日、12月17日、平成27年1月7日、1月14日、2月4日、2月13日、3月4日、3月18日（委員6名）

(3) 総務委員会 平成26年4月24日、5月20日、6月4日、6月18日、6月23日、6月24日、7月24日、9月10日、10月7日、11月4日、12月2日、平成27年1月13日、2月3日、3月12日、3月18日（委員6名）

(4) ハラスメント防止委員会 平成26年5月1日、6月17日、9月30日、12月17日（委員4名）

#### c 委員会の審議事項等

全学の評価・FD教育改善に関する事項は評価・FD教育改善専門部会、教学に関する事項は学務委員会、研究に関する事項は総務委員会、ハラスメントに関する事項はハラスメント防止委員会においてそれぞれの事項について、教員の資質の維持向上の方策を検討する。

### ② 実施状況

#### a 実施内容

##### (1) 評価・FD教育改善専門部会

全学の教職員を対象に平成26年4月2日、8月26日、8月28日、9月1日、10月24日にFDを開催した。

##### (2) 学務委員会

演習系科目を担当する教員及びコーチングフェローを対象に、平成27年3月5日にゼミナール系科目に関する意見交換会を開催し、フィールドワーク入門担当教員及びコーチングフェローを対象に、平成26年7月25日、12月19日にフィールドワークモジュールFDを開催した。

##### (3) ハラスメント防止委員会

多文化社会学部の教職員を対象に平成26年7月31日、平成26年11月27日にハラスメント防止研修を開催した。

#### b 実施方法

##### (1) 評価・FD教育改善専門部会

第1回は、本学の目指す教育、研究等に関する基本知識習得及び本学の歴史を知り本学への理解を深めるFDを行った。第2回は、初めて授業を担当する教員、授業方法を再考したい教員に授業創造の基本的な事項を概観するFDを行った。第3回は、教養教育におけるICTの有効活用のFDを行った。第4回は、入試問題作成のFDを行った。第5回は、ICEルーブリックによる批判的思考力の育成のFDを行った。

##### (2) 学務委員会

ゼミナール系科目に関する意見交換会において、平成26年度の演習系科目について問題点を指摘し、改善点について意見交換した後、平成27年度の演習系科目の在り方について意見交換し、共通理解事項を確認した。フィールドワークモジュールFDにおいて、授業資料の在り方やフィールドワークの調査方法の在り方、今後の課題等について意見交換を行った。

##### (3) ハラスメント防止委員会

第1回は、本学のハラスメント対策及び事例を交えたハラスメントの基礎知識並びに学生との接し方及び学生から相談を受けた場合の注意点について研修を行った。第2回は、教員と学生、教職員間のハラスメント防止について、講演及びケーススタディーを交えて研修を行った。

#### c 開催状況（教員の参加状況含む）

##### (1) 評価・FD教育改善専門部会

第1回は平成26年4月2日に開催し、119名出席。第2回は平成26年8月26日に開催し、10名出席。第3回は平成26年8月28日に開催し、48名出席。第4回は平成26年9月1日に開催し、27名出席。第5回は平成26年10月24日に開催し、24名出席。

##### (2) 学務委員会

ゼミナール系科目に関する意見交換会は、平成27年3月5日に開催し、30名出席。フィールドワークモジュールFDの第1回は平成26年7月25日に開催し、7名出席。第2回は平成26年12月19日に開催し、7名出席。

##### (3) ハラスメント防止委員会

第1回は平成26年7月31日に開催し、30名出席、第2回は平成26年11月27日に開催し、30名の出席があった。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

FDや研修等であがった疑問点、改善点をふまえて、教養ゼミナールやフィールドワーク入門をはじめとする講義の実施方法等をブラッシュアップし、平成27年度に向けて授業改善を行った。特に、初年次における演習系科目の接続を教員・学生双方が十分に理解するとともに、授業担当教員間の引き継ぎ、連絡調整を密にすること、2年次対象のゼミナール系科目の共通理解を図った。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

平成26年度前期（7月又は8月）及び後期（1月又は2月）に、以下の設問により学生による授業評価を実施した。

- (1) シラバスは、授業の目標や計画及び評価方法を適切に示していた。
- (2) 授業は目的達成のため計画的に進められた。
- (3) 授業担当者の教え方は適切だった。
- (4) 授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行った。
- (5) 自分は、シラバスに記載された授業目標を達成することができた。
- (6) 自分は、この授業によって学習意欲が喚起された。
- (7) 総合的にみて、この授業は自分にとって満足できるものであった。

b 教員や学生への公開状況、方法等

学生による授業評価の結果は、学務情報システムで教員及び学生に公開した。  
授業担当教員は、授業評価の結果を踏まえ、授業の総括及び今後の工夫点・改善点を分析し、評価結果と同様、学務情報システムにそのコメントを公開した。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

・「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。

### (3) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>設置の趣旨・目的については、当初設定したとおりに実現しているが、今後更に教育・研究の水準の向上を図り、設置の趣旨・目的の実現に向け取り組むことにしている。</p> <p>平成27年度入試において、入学定員を満たすことができなかったことは、重大な問題である。平成28年度以降、入学定員を着実に確保できるようにするため、学部のみならず、全学的な体制で取り組むことにしている。</p>
<p>② 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表（予定）時期</p> <p>平成27年4月1日 公表</p> <p>b 公表方法</p> <p>長崎大学ホームページ上に公開( <a href="http://www.hpe.nagasaki-u.ac.jp/data/data_result.html">http://www.hpe.nagasaki-u.ac.jp/data/data_result.html</a> )</p>
<p>③ 認証評価を受ける計画</p> <p>平成26年度に大学機関別認証評価を受審した。</p>

- (注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
- また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
- なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。
- ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、本項目を記載する必要はありません。

### (4) 情報公表に関する事項

<p>○ 設置計画履行状況報告書</p> <p>a ホームページに公表の有無 ( 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 )</p> <p>b 公表時期（未公表の場合は予定時期） (平成27年6月上旬予定)</p>
--